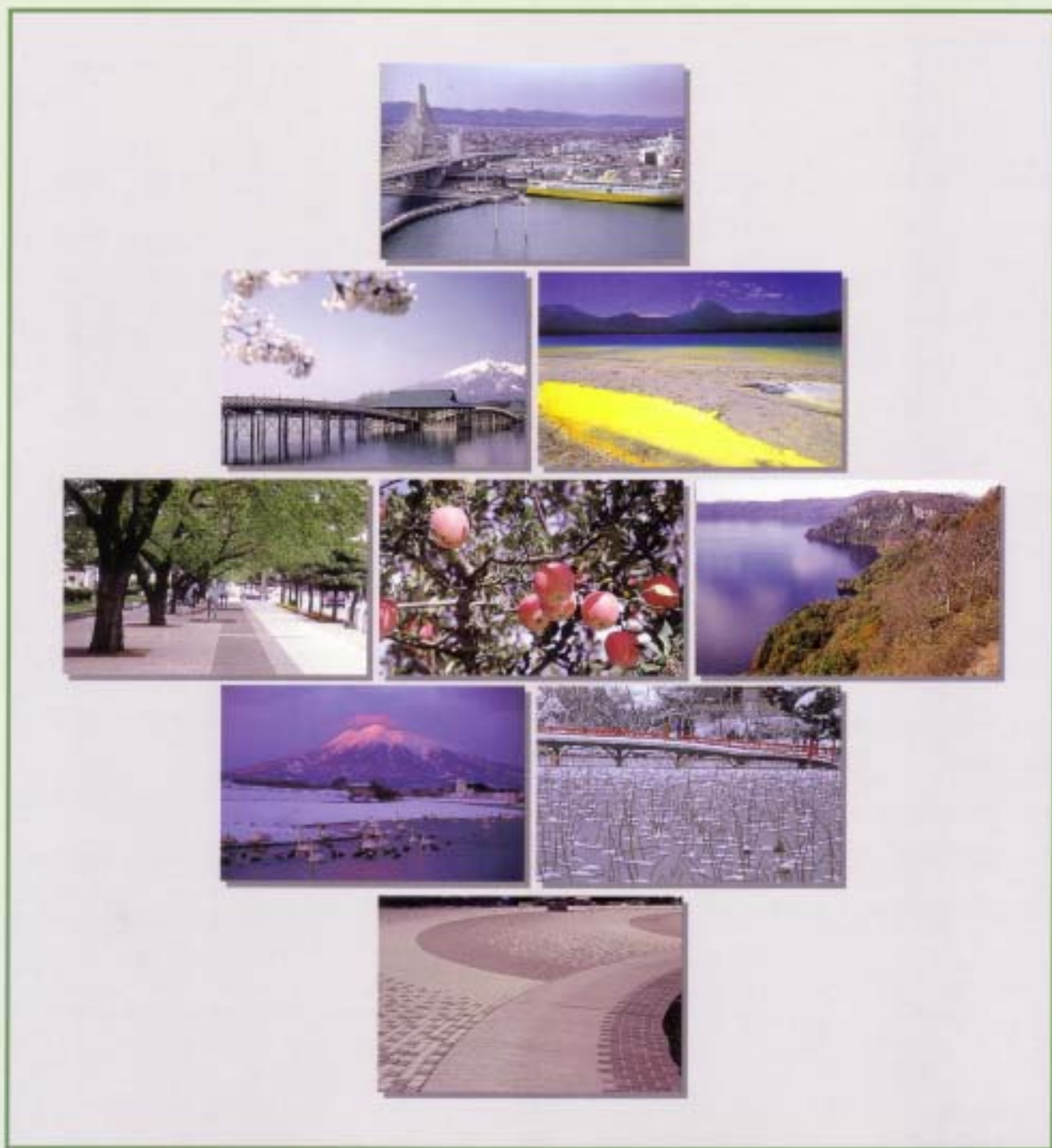


青森県景観色彩ガイドプラン



青森県

目次

青森県景観色彩ガイドプランの活用方法	2
--------------------	---

I 景観色彩の考え方

色の表示・伝達の方法	4
望ましい景観色彩とは	6
景観色彩のとらえ方	8

II 景観に配慮した色の使い方

面積比別の配色の基本	10
色彩計画の視点と事例	12
ケースに応じた色の使い方	14
景観色彩に配慮した設計の手順	18

III 推奨色範囲とその使い方

推奨色範囲について	19
・青森地域の推奨色範囲と代表例	20
・津軽地域の推奨色範囲と代表例	21
・南部地域の推奨色範囲と代表例	22
・下北地域の推奨色範囲と代表例	23
・青森地域における色彩選定の考え方	24
・津軽地域における色彩選定の考え方	26
・南部地域における色彩選定の考え方	28
・下北地域における色彩選定の考え方	30

参考資料

現況色調査のまとめ	32
現況色調査結果から推奨色範囲設定への経過	34
いろいろな景観配色のテクニック	36
景観のイメージ調査結果	38

はじめに

景観における建造物の色彩はその影響力が大きく、大規模行為や公共事業においても、良好な景観形成の立場から、環境の保全や地域性への配慮が強く求められてきています。

特に青森県は、豊かな自然と観光資源に恵まれており、多様な地理的条件、気候風土、地域特性を備えた県でもあります。

すでに景観条例にもとづき、大規模行為や公共事業における景観形成のための基準（「大規模行為景観形成基準」「公共事業景観形成基準」）を定め、配慮が必要な事項や留意すべき事項を示していますが、それらは位置や規模、形態を中心としたものであるため、色彩についても、より具体的な計画の指針やガイドプランが必要になってまいりました。

そこで今回、県として望ましい色彩の考え方や使い方をまとめた「青森県景観色彩ガイドプラン」を作成いたしました。景観形成に関わるかたがたが、良好な景観色彩に留意され、より広く県民のみなさまに愛されるような景観づくりを実現するガイドとして活用されることを願っております。

平成12年3月 青森県 環境生活部

青森県景観色彩ガイドプランの活用方法

本ガイドプランは、青森県の大規模行為や公共事業にかかわる事業者や設計者のかたがたなど、景観の設計や計画にたずさわるみなさまに向けた色彩のガイドとしてつくられています。良好な景観色彩の保全・創出のための指針としてお役立てください。

内容は、以下のような構成になっています。

I. 景観色彩の考え方

景観色彩についての基本的な見方や考え方について示しています。

II. 景観に配慮した色の使い方

望ましい景観づくりのための色の選定方法や環境のタイプ別の色の使い方、景観に配慮した色彩の設計手順について示しています。計画対象の建造物の環境条件にあてはめて活用してください。

III. 推奨色範囲とその使い方

青森県として推奨する色彩の範囲を示しています。地域別の景観タイプや景観資源、住民のみなさまに大切にされている景観をまとめ、推奨色範囲の色を使った組み合わせ事例を示しています。計画地の地域性を配慮した色使いの指針として活用してください。

参考資料

県全体の景観色彩の特徴と推奨色範囲を設定した経過、および景観色彩の配色テクニックと住民アンケート調査のイメージ分析結果を紹介しています。参考資料として活用してください。

地域別推奨色範囲について

- 本ガイドプランでは、景観形成上望ましい色彩を推奨色範囲として示しています。なお、範囲はJIS標準色票の色相（色あい）、明度（明るさ）、彩度（あざやかさ）の3つの値で示しています。
- 推奨色範囲は、現況色調査をふまえて色彩的な共通性、まとまりをもつ領域として県内を4地域に分け設定しています。そのイメージを表すため、地域別に代表色を選んで推奨色代表例として示していますが、代表例は、使用する色を限定、または特定するものではありません。（例示した色は全体におちついた色に見えますが、実際に大面積に使うと面積効果により、本冊子で見るとより明るく色みが増して見える点にご注意下さい。）

本ガイドプランの地域区分



▶ 本ガイドプラン作成にあたり実施した調査

① 現況色調査

地域別景観特性ガイドプランの景域区分である12の景域について調査を行い、各地域の色彩特性を調査し、推奨色範囲の設定の基礎データとしています。

② 住民アンケート調査

青森県にお住まいの67市町村、計1,323名のみなさまにアンケート調査を行い、大切にしたい景観や、各地域にふさわしいと思われる景観のイメージを調べ、推奨色範囲の設定の資料としています。

③ 景観に関わる情報収集

観光資源や気候風土について調査し、結果を推奨色範囲の設定の資料としています。

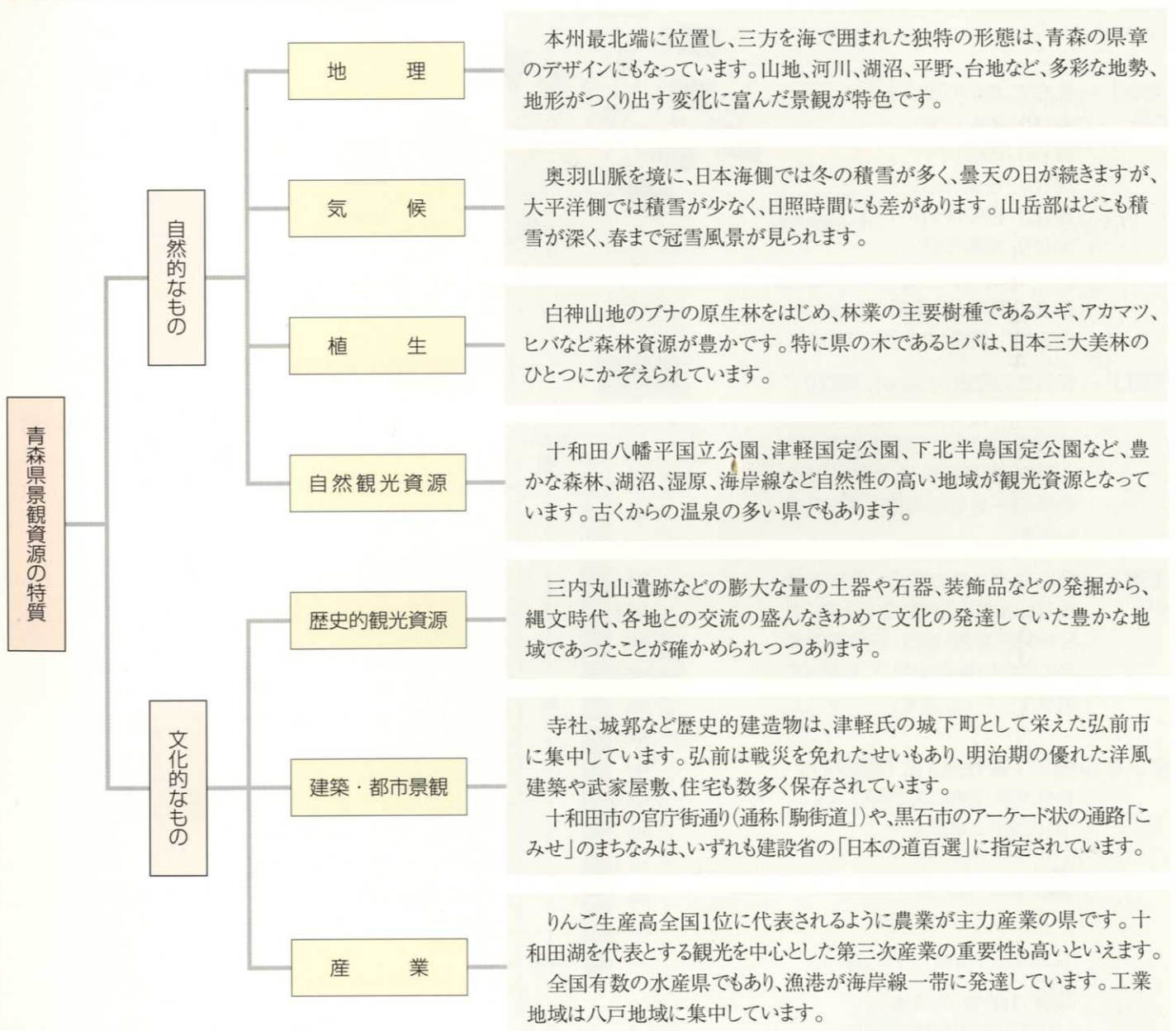
◆ 本ガイドプラン策定の視点

本ガイドプランは、以下の3つの視点で青森県の景観色彩をとらえ、提案しています。

- ① 「エコロジカル(自然との共生・共存)な面から、県の豊かな自然景観と調和する色彩を推奨する」
- ② 「地域の独自性を尊重し、固有の色使い(エリアカラー)を守り、育ててゆく」
- ③ 「心理的快適感を高めるような、色彩の効果を活用する」



◆ 景観資源に関わる青森県の特質



色の表示・伝達の方法

色のコミュニケーション(色を的確に伝えるために)

赤や黄色、緑、ベージュ、グレーと色を言葉で表しても、相手に自分の思う色が正しく伝わることは、まずありません。

一般的に“赤”といっても、

- 鮮やかな赤、 ● 暗い赤
- じみな赤、 ● 明るい赤

などこれ以外にもたくさんあります。ですから色を正確に伝えるためには、言葉だけでなく、必ず“色票(色見本)”や“マンセル値”を用いて表します。

マンセル値(表色系)では、色は色相、明度、彩度の3つで表されます。3つすべてを持っているものを有彩色、色あいがなく、明度だけ持っているものを無彩色(N:Neutral)といいます。

「色相」……色あい、色味の違い(Hue)。

- とは
- 赤(R)・黄赤(YR)
 - 黄(Y)・黄緑(GY)
 - 緑(G)・青緑(BG)
 - 青(B)・青紫(PB)
 - 紫(P)・赤紫(RP)

*記号はアルファベット読みです。

の10色相が等間隔に配列され、右上の図の「色相環(色あい)」のように、連続した円環になります。


「明度」……明るさの度合(Value)。明度0で表される理想の黒から、明度10の理想の白までの間を等間隔に10に分割されます。実際に使う色は、1~9.5の範囲で表されています。

「彩度」……色の鮮やかさの度合。色味を持たない彩度0の無彩色(白・黒・グレーなどの色)から、各色相の純色に向かい鮮やかさにしたがって、数値化されています。


マンセル値の「書き方」と「読み方」

色相、明度、彩度の順で表記します。

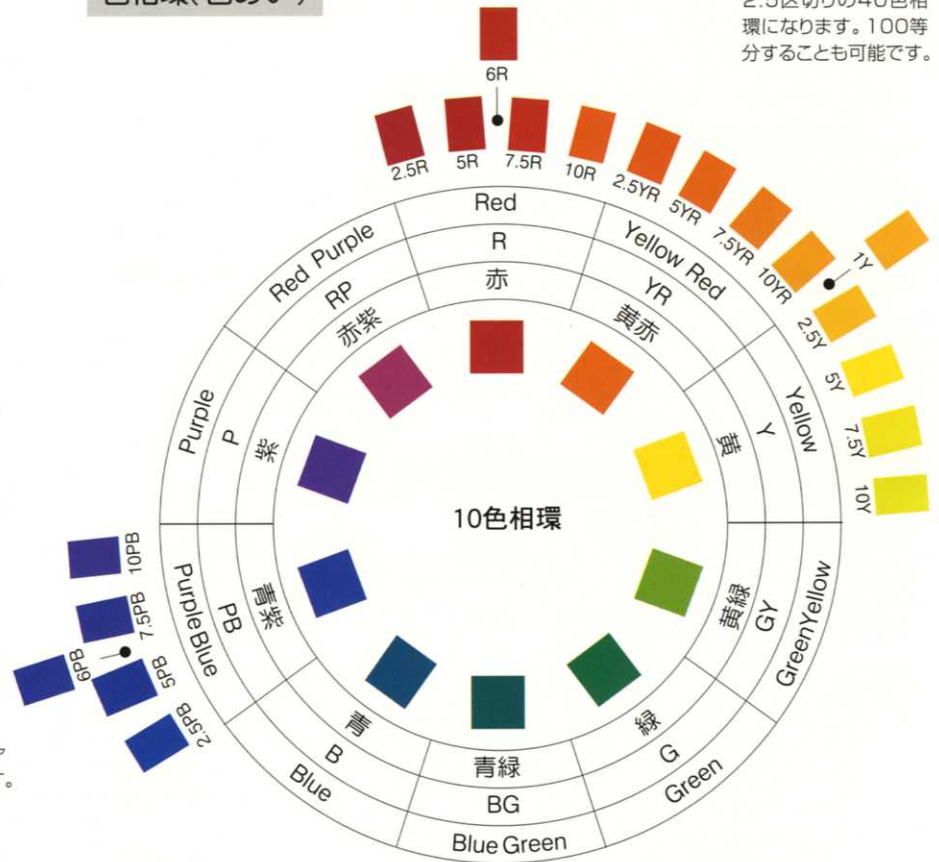
この鮮やかな赤は…

色相 明度 彩度
 5R 4/16
 ゴール ヨンのジュウロク

このおだやかなベージュは…

 10YR 7/1.5
 ジュウワイール ナナのイチテンゴ

色相環(色あい)

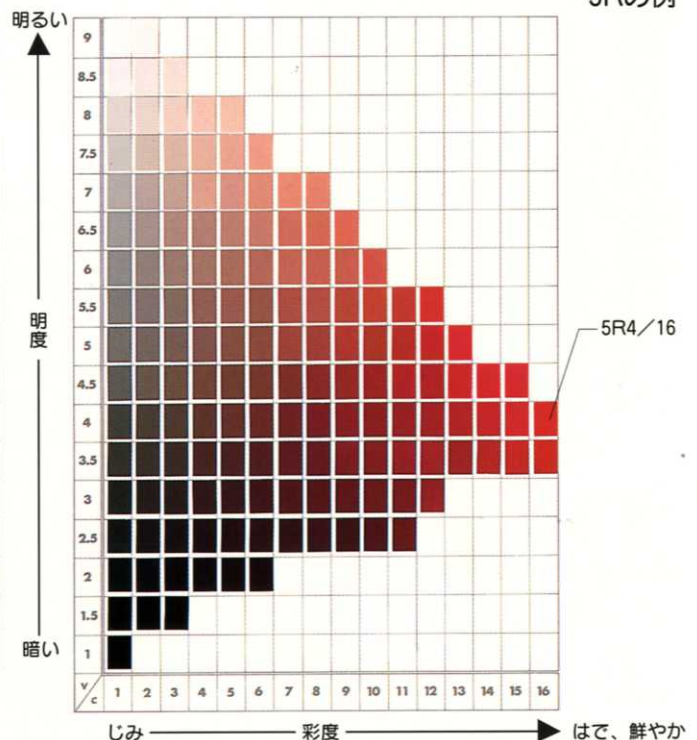


*各色相を4等分すると2.5区切りの40色相環になります。100等分することも可能です。

無彩色

- 白 N9.5
- ライ トグ レー N9
- N8.5
- N8
- N7.5
- N7
- N6.5
- ミ デイ アム グレー N6
- N5.5
- N5
- N4.5
- N4
- ダ ー ク グレー N3.5
- N3
- N2.5
- N2
- N1.5
- 黒 N1

色相面(5Rの等色相面)

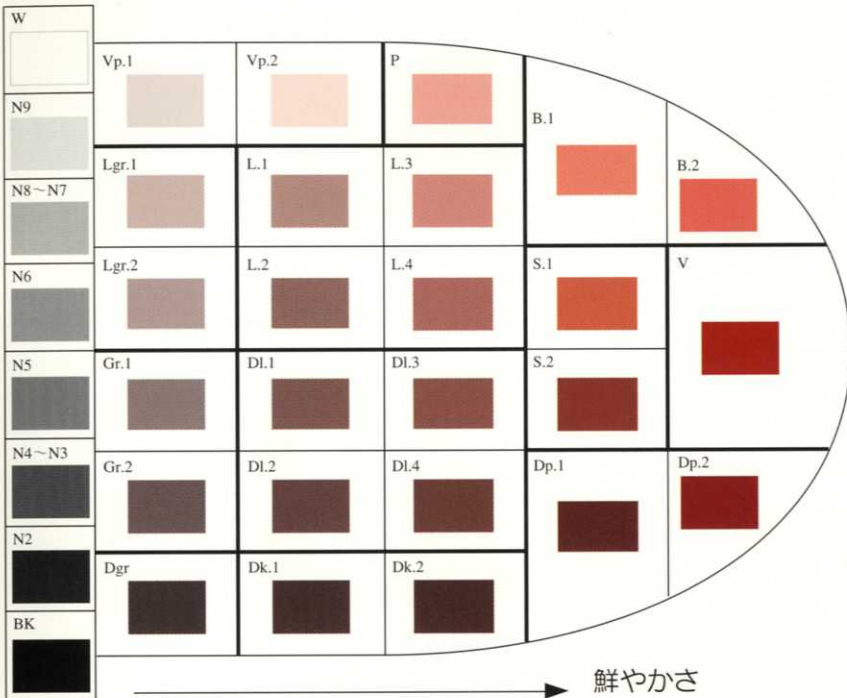


■用語解説

・マンセル値(表色系)

アメリカ人のマンセルによって考案された表色法。色を色相、明度、彩度の3属性によって整理分類したもの。色票として、マンセルブック(Munsell Book of Color)や「標準色票」JISなどがあります。

トーン図(5R)



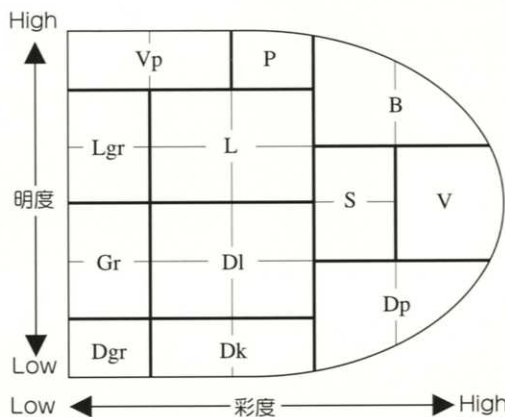
トーン(Tone:色調)

左のトーン図(5R)のように同じ色あいの色ここでは“赤”でも明るさ(明度)と色の鮮やかさ(彩度)が違ると、色は心理的にも異なって見えてきます。この印象を心理的に区分けしたものをトーンといいます。

この印象を大別すると下の表のように“はで”“あかるい”“じみ”“くらい”の4つのイメージになり、色の基本的なイメージを伝えるのに役立ちます。

さらに、この4トーンを細かく区分すると左下図の太線枠内のように12のトーンになります。

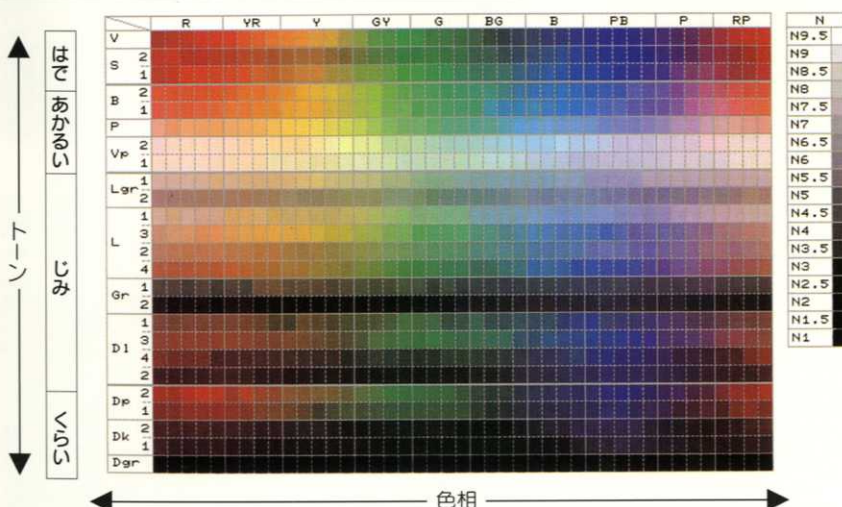
この冊子では、トーン(色調)を把握しやすいように12トーンで記述しています。(色彩調査や色彩計画では、左図のようにさらに細かい25トーンを使用します。)



トーンの記号(12トーン)

4トーンイメージ	記号	読み	意味	
はで	V	Vivid	ビビッド	あざやか つよい
	S	Strong	ストロング	
あかるい	B	Bright	ブライツペール	あかるい あわい ごくあわい
	P	Pale	ペール	
	Vp	Very Pale	ベリペール	
じみ	Lgr	Light Grayish	ライトグレイッシュ	明るい灰みの よわい 灰みの にぶい
	L	Light	ライト	
	Gr	Grayish	グレイッシュ	
	Dl	Dull	ダル	
くらい	Dp	Deep	ディープ	こい くらい 暗い灰みの
	Dk	Dark	ダーク	
	Dgr	Dark Grayish	ダークグレイッシュ	

色相とトーン(Hue & Toneスケール)



ヒュー・アンド・トーン(Hue&Tone)スケール

Hue&Toneスケールは、カラーデータの出現パターンの把握を容易にするため、色相とトーンによる2次元の平面上に色を分類整理する仕組みです。

有彩色は、10色相を4分割した40色相に慣用的に多く使われる3色相(6R, 1Y, 6PB)を加えた43色相と25トーン区分によって構成されています。そこに無彩色18色を加えた1093色のカラースケールです。

参考文献:「カラーシステム」小林重順 著 講談社

望ましい景観色彩とは

1. 自然環境に配慮した色彩

豊かな自然が豊富に残されている青森県では、その景観が観光資源となっているばかりでなく、県民のみなさまに対して実施したアンケート調査結果からも、地元の自然景観保全の要請はきわめて強いという結果になりました。

本ガイドプランでは、自然景観と調和する色彩を第一に考え、県の自然環境に合った色彩の使い方を提案しています。そのポイントは、以下の3点にまとめられます。

- ①ブナ林やヒバ林などに代表される青森県の植生の景観と調和する色彩の奨励。
- ②自然性の高い海岸線や湖沼の景観と調和する色彩の奨励。
- ③農村集落や漁村集落、あるいは開発が進む郊外において、その環境を保全し、景観の質を高めるような色彩の奨励。



2. 各地域の固有性の尊重

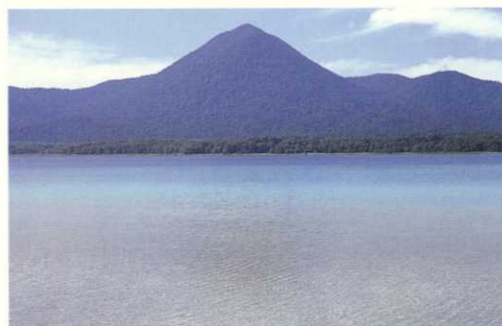
景観色彩ガイドプランのもうひとつの目的は、地域の歴史や独自性を尊重、再認識し、推奨色として生かしていくことにあります。

建材や仕上げ材の工業化・量産化が進んだ現代では、経済効率や機能効率のみを追及して設計を行うと、画一的で地域性の希薄な町並ができ上がってしまいます。

本ガイドプランでは、各地域の色彩を調査し、地域に固有に見られる伝統色や特有の色使いを「エリアカラー」としてとらえ、地域別の推奨色範囲に反映させています。また、住民意識調査から大切にしたい景観、地域に求めるイメージを調査し、推奨色範囲に反映させています。

3. 心理的に快適な色彩

景観の色は、たくさんの自然物や人工物の色が組み合わさって構成されています。その色の見え方は、対象物を見る距離の遠近や気象条件によっても変化します。色を組み合わせる場合にも、統一によって生まれる美しさ、対比によって生まれる美しさ、面積比のちがいによって感じる色の効果の違いがあります。景観材では、下地や仕上げの素材感によっても色の感じ方は異なります。こうした色彩心理の研究を応用、活用しながら、心理的にこころよく、望ましい景観を形成する色彩の使い方を提案しています。

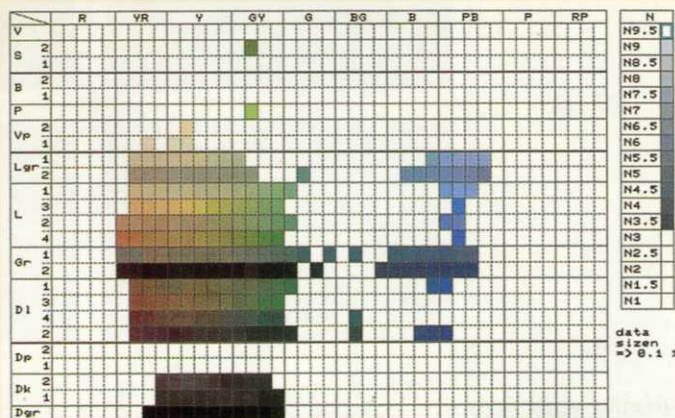


■ 現況調査で作成した資料事例

植生の葉や幹、土、砂、岩、石、空、水面など自然環境色を測色し分析すると、分布の集中する範囲が分かります。植生の中心は、色相ではYR系、Y系、GY系で、トーンではLightトーンやGrayishtーン、Dullトーンなどのおだやかでおちついた範囲です。土や砂はYR系、Y系のGrayishtーンやDullトーンで、やはりおちついたトーンです。

色相ではP系やRP系、トーンでは極端に明るいトーンや彩度の強いはでなトーンは少ないといえます。

■ 青森県の自然色 (植生、土、砂、岩、水面など)

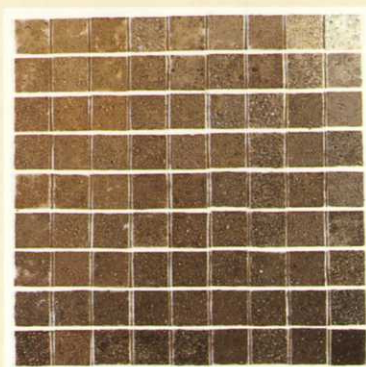


植生のカラーサンプル



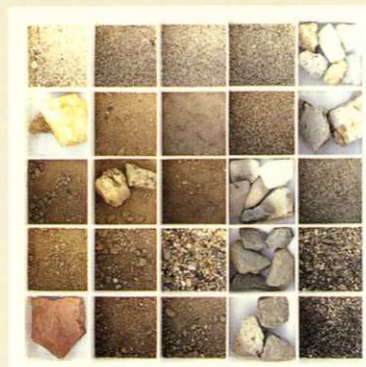
測色した植生の色の变化を色票で示しています。

土のサンプル



県内で収集した土のサンプルです。グレイッシュな褐色系が基調です。

海岸の砂、岩のサンプル



土に比べ、海岸線の砂や岩の色は比較的变化に富んでいます。

景観色彩のとらえ方

1. 色彩の評価・検討の基本要件

- ① 景観色彩では公共性を配慮し、建造物の目的や用途、周辺環境との関係において、適切な使い方を検討することが必要です。
- ② 景観は、自然物と人工物から構成されます。建造物や工作物など人工物の色のコントロールが本プランの目的です。
- ③ 景観は地域住民に親しまれた色、飽きの来ない色で整えることが必要です。色彩が整えられた地域は次世代に引き継ぐべき県民の財産となります。

2. 色彩計画時の距離的条件

景観色彩を計画する場合、視点場(P.9参照)の距離によって見え方が異なる点に注意してください。

	遠景 (ランドスケープ・レベル)	中景 (タウンスケープ・レベル)	近景 (ストリートスケープ・レベル)
事例			
			
代表的な視点場と対象物までの距離	展望台、高いビル、山中やスキー場からの眺望、海岸沿いの道路や車窓からの眺望	幹線道路からの市街や集落の眺望、農道や海岸線の眺望	繁華街や住宅地、集落の道路、対象物の近隣の道路
	約1km以上	約200m～500m以上	約100m以下
ポイントと見え方の特徴	<p>輝度対比※を少なくする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な大きさの建造物は点や点の集合体に見えます。 ・大気や気象条件によって見え方の変化が大きく、遠方は水蒸気やちりで霞んでグレーがかって見えます。 ・色相の違いよりも明るさや反射が視認され、光沢のある外装は晴天時に反射光を放ちます。 	<p>基調色に配慮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町並や集落の色全体が視認され、個々の色彩や相互の関連性、差異が認識されます。 ・植生のおおまかな種類や、田畑の作物の種類や様子もだいたい見分けられる距離です。 ・個々の建造物ばかりでなく、部位別の色の違いもわかるので、色の選定には重要な距離となります。 	<p>配色の細部を配慮する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の建造物の部材別の色の違いや素材感、凹凸感が視認されます。 ・中景、遠景と比較して、隣の建造物や道路の路面との関係、市街では、ファサード(入口のある正面)が重要になってきます。 ・光の当たり方による色の見え方の違いが現れる距離です。

※ある対象物を見ているときに、その対象物が出す光の強さを数値で表したものです。明度の高い色、反射性の高い仕上げ材を使うと、背景の対比が強くなり、建造物が浮き立ったように見えます。

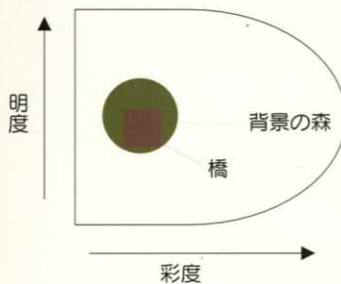
3.背景との対比関係

環境に対する色の見え方は、背景（地）と対象物（図）とのトーンの関係が非常に重要です。背景に対する見え方の度合いを大きく分けると、以下の3タイプに分類されます。事例に示した景観の色をトーン図で説明します。

同一トーン（同化）

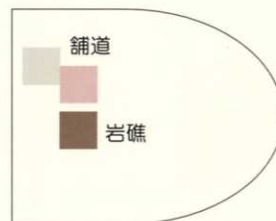
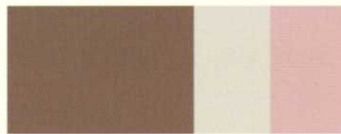


トーン図での位置



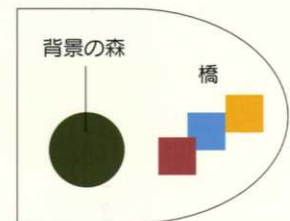
環境に溶け込ませてしまう方法です。環境を主体におき対象物をなるべく目立たせないようにする方法です。

類似トーン（類似化）



環境のトーンに近い色を使い、適度な存在感を感じさせる方法です。色相の類似性も必要です。

離れたトーン（対比化）

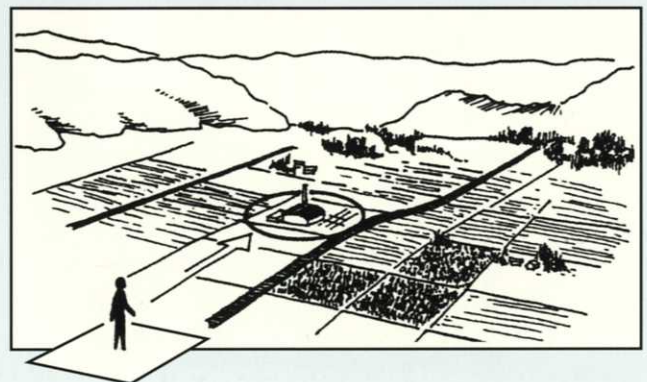


対象物をきわだたせ、目立たせる方法です。ポイント効果をねらった橋りょうなどの色彩に使われますが、注意深い計画が必要です。

4.「視点場」とは

視点場とは、対象とする建造物を見ることができる場所の中から、景観設計のために選ばれた場所をさします。色彩の検討や選定のためには、いくつかの視点場を選定する必要があります。その数については厳密な規定はありませんが、「もっともたくさんの人が頻繁に対象物を目にしやすい場所」が代表的な視点場にふさわしいといえます。

視点場から撮影した写真やスケッチ、パースなどは色彩を検討する基本的な資料になります。



面積比別の配色の基本

1. 配色の面積比

面積比から配色をとらえると、基調色、準基調色、アクセント色の3種に分類されます。

- ①色彩を景観として調和させるためには、基調色の設定が大切です。
- ②配色のこころよさを高めるには、準基調色が基調色に調和していなければなりません。
- ③景観を生き生きさせるためには、アクセント色を効果的に使うことも必要です。

①基調色の選定－全体のイメージを左右するベース色です

基調色とは、文字どおり対象物の外観の中心となる色のことです。建物であれば外壁や屋根、路面であれば舗装材の色、橋りょうであれば本体のベースにどんな色を付けるかで全体の印象が決まります。検討時の留意点としては、P.9で述べたような周辺環境との対比感に注意し、近隣に好ましい景観を形成している色彩の建築物や人工物がある場合には、それらとのつながりに注意しながら、ベースとなる色調を検討します。



群としての屋根色が景観の基調色となっています。



基調色のブラウンを生かして、全体がまとめられています。

②準基調色（サブカラー）－配色の質を高めるために用います

準基調色とは、基調色に対して用いるサブカラーのことで、用いる面積は基調色に対して少ない面積になります。建築の外装ばかりではなく、タイルやブロック、石材などを使った舗道材などにおいて、路面を単色にすると表情の乏しいものとなるためデザインパターンを配色することが行なわれます。こうした場合に基調色と近い色相でトーンに変化をつけると、デリケートでリズム感のある好ましい配色の効果を得られます。



部材やサインなど全体にトーンの効果が生かされています。



トーン効果でリズム感が生まれ、単調さが回避されています。

③アクセント色の活用—シンボル効果やにぎわいを与えます

アクセント色とは小面積に用いる強調色のことです。使用の目的は大きく2つあります。ひとつは、シンボルカラーをサイン的に用いるケースで、識別的な目的があります。もうひとつは、外観ににぎわいやリズムを与え、デザイン上のバランスをとるための装飾的手法として用いられるケースです。いずれの場合にも色数を増やしすぎないこと、面積を広げすぎないことが重要です。特に自然環境を保全すべき地域では、アクセントカラーの使用に注意が必要です。



観覧車の色が景観に楽しさを与えています。



アクセントカラーを使い圧迫感を回避しています。

2.面積別の色の選定方法



事例



①基調色の選定

周囲の環境やエリアカラーを考慮し、選定します。有彩色では色相とトーン、無彩色では明度に注意ながら基調色となる色を選びます。(一般的に、はでなトーン、極端に明るいトーン、暗いトーンは基調色には向きません。)

②準基調色の選定

基調色に近い色相で、トーンに差のある色を選びます。差がわずかであれば繊細な感じ、差が大きければシャープな感じが得られます。準基調色は補助色として2色～3色必要な時もあります。

③アクセント色の選定

トーン差のある色がアクセントになります。色相は基調色に近い場合もあれば、離れている場合もあります。

■色相とトーンスケールでの関係

		色相のちがい									無彩色	
		R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P		RP
トーンのちがい	はで	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
	明るい	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	じみ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	くらい	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

注: 色相のちがいの行で、YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P の色相はそれぞれ異なる色の円で示されています。また、YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P の色相はそれぞれ異なる色の円で示されています。また、YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P の色相はそれぞれ異なる色の円で示されています。

(P.5の色相とトーンスケールを簡略化して表示しています)

色彩計画の視点と事例

色彩計画時のポイントと調和の考え方

環境的要件や地域性

自然環境色

植生
土、砂、岩
海、湖沼、
四季の変化など

エリアカラー

各地域ごとに見られる固有の色使い
歴史的町並や伝統建築の色など

地域のイメージ

住民が大切にしたい景観やふさわしいと思うイメージなど

色を使うための知識や技法

色相とトーン

色の表示・伝達の方法

色の選び方

背景との対比感

配色の方法

面積比別の配色
配色テクニック

①主に自然環境との調和をはかる

- 近景、中景だけではなく、遠景からの明るさの見え方や、反射性にも注意します。環境に対して同化、類似化の対比が原則です。
- 周囲の植生や土、砂、岩などの色彩、季節ごとの色彩の変化も計画に入れ、四季を通じて周囲に調和する色を検討しましょう。
- 同じエリアにある別の建物や施設の色・素材感が、周囲になじんでいるかどうかチェックしてみましょう。木質仕上などにおいて彩度の高い塗装により質感を損なわないよう注意します。

②自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしの調和をはかる

- 自然環境に対しては①の考え方が基本になりますが、町並としての連続性やまとまりに注意することが必要です。
- 計画地域のエリアカラーに注意します。
 - ・周囲にある歴史的町並や建造物の色
 - ・地元集落や古くからある市街地に見られる色
 - ・地元の推薦色や交通機関やサインなどに特徴的に使われている色

③市街地で、町並や人工物どうしの調和をはかる

- 計画地域のエリアカラーに注意します。②の項と同様の考え方が基本になります。
- 景観としてのまとまりや、連続性、リズムが必要です。周囲から突出した色、つながりを壊す色を控えることが必要です。
- 植栽計画がある場合、背景との関係を配慮し、葉や花、幹が美しく映える色を検討します。
- アクセントカラーも効果的に活用することができます。

※色相とトーンの見方はP.4・5参照

■ 良好な事例と解説



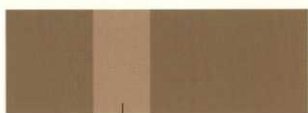
自然景観に溶け込む色相とトーンを使っています。



背景 建物 前景
GY/DI N5 N9 YR/Lgr R/Dk GY/L



経年変化に耐えやすい色相とトーンを使用しています。



背景 橋りょう 背景
Y/Lgr YR/Gr YR/Lgr



木質の素材感を生かした色相の仕上げです。



背景 建物 背景
GY/Gr YR/DI GY/Gr



屋根色を統一することにより、集落のまとまりが形成されています。



背景 建物 前景
GY/Dgr R/DI YR/Lgr GY/DI



壁や屋根の色を統一することにより、群のまとまりが形成されています。



背景 建物 背景
Y/DI N4 YR/DI N9 Y/DI



サインの色とガードレールの色との調和がはかられています。



背景 サイン ガードレール 背景
GY/L N8.5 YR/Dgr YR/Lgr R/Dgr GY/L



フェンスと歩道が同一色相で整えられています。



フェンス 歩道
YR/Dgr YR/Lgr



橋りょうの高欄の色を背景の建築物に合わせ、調和をはかっています。



建物 高欄
YR/Dk YR/Dgr



歩道においてトーン効果に注意し、モニュメントや植栽が映える色を使っています。



歩道 植栽モニュメント
N7 N6 N5 GY/DI B/L

ケースに応じた色の使い方

景観タイプとケースについて

たとえば、橋の色を決める場合に、都市部と山間部では考慮すべき条件が異なります。また、互いに離れた地域でも景観の構成条件が似ていれば、環境色に類似性があります。このような景観の色彩を構成する条件に合った色の使い方が望ましい色彩環境を実現する基本となります。

本ガイドプランでは、景観色の類似性に基づき県内の景観をタイプ分類し、色彩計画の要件ごとに以下3つのケースに分けて望ましい色の使い方を提案しています。

1. 主に自然環境との調和をはかるケース
2. 自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース
3. 市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

■景観タイプの説明

色彩の要件と景観タイプ	特 徴	代表的視点場
計画地に自然的要素が強い ↑ ↓ 計画地に人工的要素が強い	【山岳景観】 山岳や山間に見られる景観です。植生の色や遠方の山並の色、土や岩の色が中心となります。	奥羽山脈に属する山岳、津軽山地、白神山地、恐山山地の山岳、岩木山などの幹線道路や山道、林道沿い
	【海岸景観】 大規模な港湾施設を備えていない海岸線の景観を指します。砂丘や岬、干潟、小規模な漁港も含まれます。	海岸線の国道や鉄道沿い
	【高原・台地景観】 緩やかな起伏をもった放牧地や草地の景観です。土や草の色を背景に人工物が点在する景観となります。	三本木原一帯、八戸南部、東北町一帯、横浜町陸奥湾沿い一帯、岩木山北部の長平高原などの幹線道路、農道沿いなど
	【山麓景観】 山すその農村や果樹園など山の斜面が背景となる場合が多い景観です。青森県では岩木山麓のリンゴ畑の景観が典型といえます。	山麓一帯の道路沿いなど
	【河川湖沼景観】 比較的広い河川敷をもった川と湖沼の景観を指します。(山間を流れる渓流や湖は山岳景観になります。)	岩木川流域、赤石川流域、相坂川流域などの橋の上や道路沿い、十和田湖、小川原湖、十三湖などの湖畔
	【田園農村景観】 比較的平坦な田畑の中に農村集落が点在する景観。土や作物の色、背景の森や山並、集落の外装などの色彩から形成されます。	県内平野部の幹線道路や農道、鉄道沿いなど
	【市街地景観】 商業地域やオフィス地域、住宅地など人口の集中する地域の景観です。住宅地区ではおちつきが、オフィス地区ではまとまりが、商業地区ではにぎわいが重視されます。	県内市街地一帯の道路、鉄道沿いなど
	【産業施設景観】 大規模な漁港や港湾施設、工場、コンビナートなど。工業や水産業が発達した地域の景観です。	八戸港や青森港、大湊港の一帯の道路沿いなど

1.主に自然環境との調和をはかるケース

山岳景観や海岸景観など、計画地周囲に人工物が少なく自然性が高い景観の場合は、どのような点に気をつければよいでしょうか。

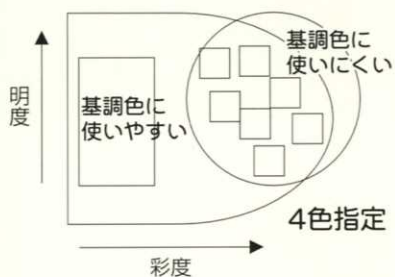
色使いのポイント

- 四季を通じた植生の色の变化や、山肌や土、岩肌、砂などの色、積雪時の景観の色彩の変化も視野に入れましょう。
- 近隣に建物や施設があれば、その色や素材感が環境になじんでいるかどうか、チェックしてみましょう。色使いのヒントが見つかるかもしれません。
- 自然景観はスケールが大きいので、近景、中景だけではなく、遠景の視点場からの眺望にも注意してください。

注意を要する色の使い方（事例は説明のため実際の色を変えて作成したものです）

基調色に高彩度の色や自然色から離れた色相にしないこと。

- ・特に明度の高い明るい色では、彩度が6を超えると、色みが強く感じられます。
- ・その傾向は、P系（紫系）やRP系（赤紫系）など、自然にあまり存在しない色相ほど強く感じる傾向があります。



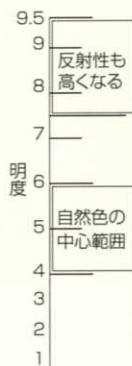
赤茶系の屋根も、彩度を上げすぎると、どぎつくなります。



自然環境色から離れた色相は違和感を与えやすい点に注意してください。

明度の高い色を大面積に使用しないこと。

- ・積雪時を除くと、自然環境の基調色は明度4～6の範囲に集中しています。
- ・明るすぎる色は周囲から浮いて見えるだけでなく光の反射性も高いため晴天時の日中に特に目立ちます。
- ※面積効果で、無彩色の場合、明度7.5～8.0程度でも「白」と認識されます。



周囲の環境色に対して、外壁のみが突出しています。



外壁の木の質感がひきたちません。

2. 自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

計画地の周囲の自然性は高いが、すでに建造物等がいくつも建っているような景観ではどのような点に気をつければよいでしょうか。

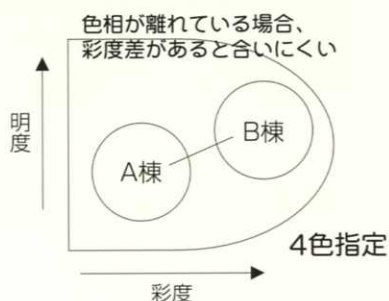
色使いのポイント

- 自然環境に近い色であり、かつ現地の建造物と調和する色彩がもっとも適しています。
- 近隣の建物や施設の色が良好な景観を形成しているかどうかチェックし、相互の色彩のつながりやリズム感に注意します。
- 周囲の植生や緑地の色彩変化、土や山肌や岩肌の色、積雪時の色彩の変化も念頭に置いてください。

注意を要する色の使い方（事例は説明のため実際の色を変えて作成したものです）

自然環境と建築物相互のまとまりに注意をはらってください。

・建築物相互の基調色に色相差や彩度差が大きい場合、バランスのとれたコーディネートがむずかしくなります。特に色相を多く使う時はトーンを合わせるのがコツです。



2棟の間に色相差があるため、まとまった感じがしません。



1棟の屋根が集落の景観を損なっています。

計画地のエリアカラーを重視してください。

・塗装の色やタイルなどは、比較的カラーバリエーションが豊富ですが、目新しさのみで選ばず、計画地域の伝統色やエリアカラーを大切にしてください。



橋りょうにおいて、集落の色が考慮されていないため、地域らしさが感じられません。



周辺建築との色の関連がなく、外壁のみが突出して見えます。

3. 市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

計画地の周辺がすでに開発が進んだ市街となっており、町並や都市景観としての調和を重視する場合はどうでしょうか。

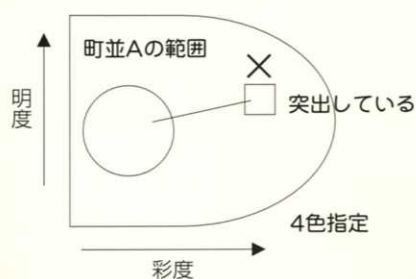
色使いのポイント

- 市街地では、商業地区、オフィス地区、住宅地区、歴史的町並、公園といった、エリアごとのイメージプランニングが重要です。
- 商業地区は雑然とした景観になりやすいエリアです。町並としての連続性やリズムに注意し、周辺の建造物とのまとまりを保つ色彩を優先させます。
- 地域の建物や周辺地区に、伝統的に使われている色や統一感のある色使いがあるかをチェックします。
- アクセントカラーを使用する場合は、目立ちすぎないように、大きさと彩度に注意をはらいます。
- 産業施設においては、外観の圧迫感をやわらげ、景観に溶け込む色を優先させます。

注意を要する色の使い方（事例は説明のため実際の色を変えて作成したものです）

町並や施設群の秩序感をこわす色の使い方を控えます。

- ・周辺施設のトーンのまとまりを配慮し、全体からみて近い明度、彩度を優先させます。
- ・基調色に彩度6以上は要注意です。



フェンスの色のみが突出しています。



1棟が全体の中で浮いています。

幹線道路沿いや住宅地では不快感を与えない色を配慮して下さい。

- ・色相によって、彩度がそれほど高くなくても、多くの方が不快感をもよおす色相があります。P系（紫系）、RP系（赤紫系）などは、基調色に使うと、げげげしい印象になりがちです。
- ・また、住宅地では、ベージュやアイボリーなどの基本色を重視した色使いが大切です。



周囲に不快感を与えやすい色相と彩度です。



住宅街としてのまとまりやおちつきが感じられません。

景観色彩に配慮した設計の手順

以下に、景観色彩に配慮した設計の実施手順を示しています。

基本設計時

計画地の色彩チェックとイメージプランニング

景観設計上の基本検討要件

- ①建築物等の位置、規模、形態など
- ②外観の意匠、仕上材

1.情報収集

県内を12の景域に区分し、景域別の特性や配慮事項を示した「地域別景観特性ガイドプラン」を参考とするとともに、計画地周辺の情報を市町村の景観窓口に問い合わせ、景観形成基本方針等、配慮すべき情報の収集を行って下さい。

2.地域の環境特性の把握

計画地の周辺道路や視点場から環境色や町並の色などをチェックし、好ましい色の条件をあらい出します。視点場からの写真等を使いラフなデザインイメージを描きます。

3.イメージ・プランニング

計画物の外観のイメージの方向をまとめ、デザインコンセプト(方針や考え方)をまとめます。色彩が周辺環境に与える影響を考え、計画物の用途や性格にマッチした外観イメージを企画します。

実施設計時

4.仕上げ材別の検討

仕上げの材料ごとに、適した色の範囲や種類があります。計画したデザインコンセプトにふさわしい材料かどうか、既製品色のなかにふさわしい色があるか、特注色が必要か、仕上げ材の見本帳やサンプルを調べておきます。
※色の退色性やメンテナンス(維持管理)にも注意が必要です。

5.色彩の検討

選定した材料別に基調色と必要に応じて準基調色、アクセント色を選定します。ケースに応じて数案作成するとよいでしょう。
推奨色範囲…P.19~P.23
地域別のデータと色彩選定の考え方…P.24~P.31
などを参考にしてください。

6.景観シミュレーション

パース、立面図、CGなどで、計画地に建築物等の画像を描き、着色してみます。周囲の景観タイプや地域性にマッチしているかどうかを検討します。
配色テクニック…P.36、37
などを参考にしてください。

※色のチェックと指定方法

マンセル値表示の無い仕上げ材のサンプル帳や既製品の場合は、JISの標準色票と照らし合わせ、色相、明度、彩度を確認します。
塗装色の指定には、社団法人日本塗料工業会の色見本が広く使われています。
塗装以外の仕上げ材や特注色の選定・指定には各種の色見本帳や色票による指定が行われます。

景観形成基準の適合性の判定

- ・青森県大規模行為景観形成基準
及び青森県大規模行為景観形成基準ガイドプラン
- ・青森県公共事業景観形成基準
及び青森県公共事業景観形成基準ガイドプラン

推奨色範囲について

範囲はJIS標準色票の色相、明度、彩度の3つの値で示しています。地域別に推奨色範囲から代表例を示していますが、使用する色を限定、または特定するものではありません。なお、示した色は印刷色ですので、再現性に限界があります。

本プランでは地域別の推奨色範囲を示していますが、青森県全体として推奨する色の範囲を以下のように設定しています。(各地域を包括する色の枠組みです)

■県全体の推奨色範囲の考え方

○**基調色**……外観の中心となる大面積に用いる色をさします。県の自然環境や町並を阻害しない範囲を推奨しています。

- ・色相…YR系、Y系の範囲を中心に推奨しています。他の色相については、P系、RP系は景観を阻害するおそれがあるので、十分に注意してください(特に彩度4以上の場合)。
- ・明度…壁面については明度4~8.5の範囲、屋根については明度2~5までの範囲を推奨しています。
- ・彩度…5以下を推奨しています。

○**準基調色**……基調色よりも小さい面積に使用する色をさします。基調色に配色することにより、全体に変化を与え、バランスをとるために用いる色です。

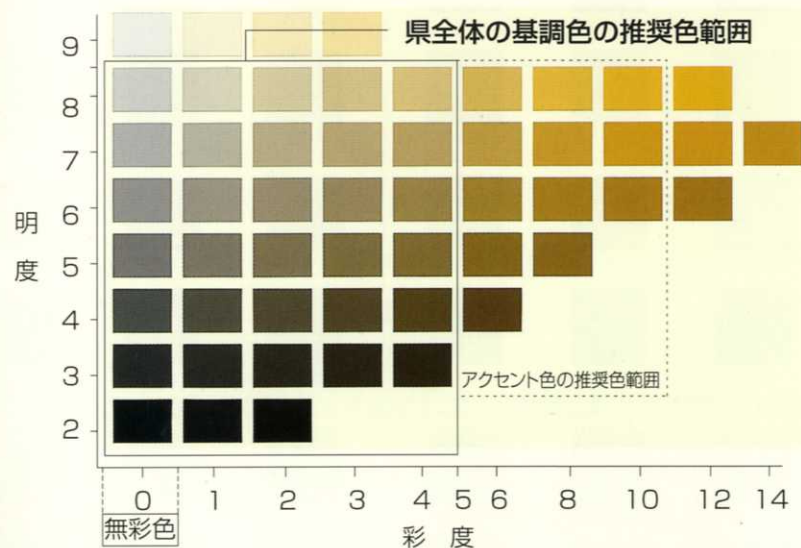
- ・色相、明度、彩度とも特に定めませんが、基調色に用いた色に近い色相を使用し、トーン差(明度と彩度による色の差)をもたせた色の使用をおすすめします。

○**アクセント色**…計画物の小面積に使う彩度の強い色をさします。

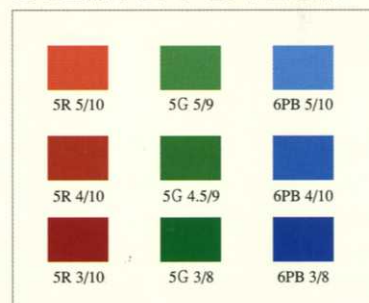
- ・色相、明度とも特に定めませんが、彩度については10以内を推奨します。

※この範囲を超える色彩が特に必要な場合には、十分な検討をお願いします。また、しっくいやレンガ、石材やコンクリート、木質などの素材色は上記の対象から除きます。

・色相10YRでの説明 参考のため、色相10YRを例にした範囲を示しています。



他の色相でのアクセント色の例



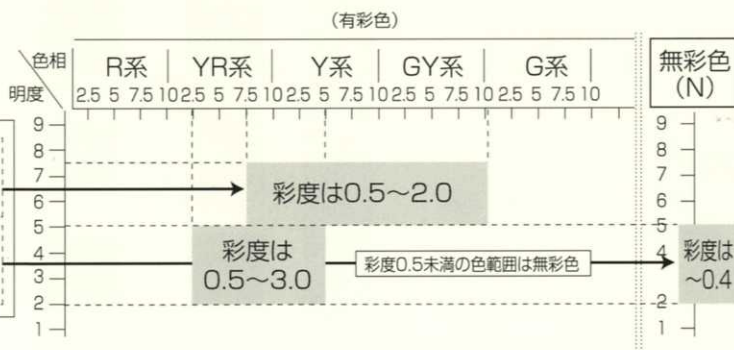
無彩色の範囲と表示方法について

推奨色範囲において彩度が0.5未満の色は、無彩色に属します。略号のN (Neutral Color) と明度の値で表示しています。

■地域別推奨色範囲の見方 (P.20~P.23)

色相範囲ごとに明度、彩度範囲を設定しています。この例の場合、□で示した範囲が推奨色範囲です。

例)



青森地域の推奨色範囲と代表例

推奨色の代表例は、推奨色範囲から選んだ基調色・準基調色を景観タイプ別 (P.14~P.17参照) に内陸部と沿岸部に分けて示しています。

景観タイプ別推奨色範囲	配色	推奨色代表例					
		内陸部			沿岸部		
<p>◆主に自然環境との調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 5YR~2.5G 明度5~7.5 彩度0.5~3</p> <p>色相 10R~2.5G 明度2~5 彩度0.5~4</p> <p>●準基調色 色相 2.5YR~2.5G 明度5~8 彩度0.5~4</p> <p>色相 10R~2.5Y 明度2~5 彩度0.5~4</p>	基調色						
	準基調色						
<p>◆自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 2.5YR~7.5G 明度5~8 彩度0.5~3</p> <p>色相 10R~7.5G 明度2~5 彩度0.5~5</p> <p>●準基調色 色相 10R~7.5PB 明度5~9 彩度4以下</p> <p>色相 5R~7.5PB 明度2~5 彩度5以下</p>	基調色						
	準基調色						
<p>◆市街地で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 7.5PB~7.5RPを除く色相 明度5~8.5 彩度3以下</p> <p>色相 10R~10YR 明度3~5 彩度5以下</p> <p>●準基調色 色相 7.5PB~7.5RPを除く色相 明度2~9 彩度5以下</p>	基調色						
	準基調色						

津軽地域の推奨色範囲と代表例

景観タイプ別推奨色範囲	配色	推奨色代表例					
		内陸部			沿岸部		
<p>◆主に自然環境との調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 2.5YR~5G 明度5~7.5 彩度1~3 色相 7.5R~10G 明度2~5 彩度0.5~4</p> <p>●準基調色 色相 2.5YR~10G 明度5~8 彩度1~4 色相 10R~10G 明度2~5 彩度0.5~4</p>	基調色						
	準基調色						
<p>◆自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 2.5YR~10Y 明度5~8 彩度0.5~4.5 色相 7.5R~10YR 明度2~5 彩度0.5~5</p> <p>●準基調色 色相 2.5YR~10Y 明度5~9 彩度0.5~6 色相 5R~5PB 明度2~5 彩度6以下</p>	基調色						
	準基調色						
<p>◆市街地で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 5YR~10Y 明度5~8.5 彩度3以下 色相 2.5YR~10YR 明度2~5 彩度4以下</p> <p>●準基調色 色相 2.5YR~10Y 明度5~9 彩度4以下 色相 10R~5PB 明度2~5 彩度5以下</p>	基調色						
	準基調色						

南部地域の推奨色範囲と代表例

景観タイプ別推奨色範囲	配色	推奨色代表例					
		内陸部			沿岸部		
<p>◆主に自然環境との調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 7.5YR~2.5G 明度5~7.5 彩度1~3 色相 5YR~2.5G 明度2~5 彩度0.5~4</p> <p>●準基調色 色相 5YR~2.5G 明度5~8.5 彩度0.5~4 色相 10R~2.5G 明度2~5 彩度0.5~4</p>	基調色						
	準基調色						
<p>◆自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 2.5YR~5Y 明度5~8 彩度0.5~3 色相 2.5YR~10YR 明度2~5 彩度0.5~4</p> <p>●準基調色 色相 2.5YR~6PB 明度5~9 彩度0.5~4 色相 5R~6PB 明度2~5 彩度6以下</p>	基調色						
	準基調色						
<p>◆市街地で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 7.5PB~7.5RPを除く色相 明度5~8.5 彩度3以下 色相 7.5PB~7.5RPを除く色相 明度2~5 彩度4以下</p> <p>●準基調色 色相 7.5PB~7.5RPを除く色相 明度5~9 彩度4以下 明度2~5 彩度5以下</p>	基調色						
	準基調色						

下北地域の推奨色範囲と代表例

景観タイプ別推奨色範囲	配色	推奨色代表例					
		内陸部			沿岸部		
<p>◆主に自然環境との調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 7.5YR~10GY 明度5~7.5 彩度0.5~2 色相 2.5YR~5Y 明度2~5 彩度4以下</p> <p>●準基調色 色相 2.5YR~10GY 明度5~8 彩度0.5~4 色相 10R~10Y 明度2~5 彩度4以下</p>	基調色						
	準基調色						
<p>◆自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 5YR~5Y 明度5~8.5 彩度0.5~3 色相 2.5YR~1Y 明度2~5 彩度0.5~4</p> <p>●準基調色 色相 5YR~6PB 明度5~9 彩度4以下 色相 2.5YR~6PB 明度2~5 彩度5以下</p>	基調色						
	準基調色						
<p>◆市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース</p> <p>●基調色 色相 2.5YR~6PB 明度5~8.5 彩度3以下 色相 2.5YR~10Y 明度2~5 彩度4以下</p> <p>●準基調色 色相 7.5PB~7.5RPを除く色相 明度5~9 彩度4以下 明度2~5 彩度5以下</p>	基調色						
	準基調色						

青森地域における色彩選定の考え方

■地域の特徴

陸奥湾を臨む青森市街を中心に、近郊に浅虫温泉、南部には四季折々の自然の変化とレジャーが楽しめる八甲田連峰が控えています。青森市市街は、ランドマークとなっているベイブリッジやアスパムをはじめ、商業ビルやオフィスビルが立ち並び大都市の景観を呈しています。郊外は住宅や商業施設の開発が進行しつつありますが、色彩的には沿道の看板や建築外装など、やや雑然としています。

津軽半島や夏泊半島の沿岸帯には、漁村集落が点在し、街道沿いには伝統的な町並も残っています。田園農村景観は、津軽半島東部に見られ、広大な水田景観が広がっています。



カラーイメージは現況色の特徴をあらわしています。下線はエリアカラーが見られる事物やゾーンをさします。

■景域別データ

景域とカラーイメージ	主要な景観のタイプ	景観資源的なもの	守りたい景観とふさわしいイメージ (市町村別住民調査より)
津軽半島北部景域 ナチュラルダンディ	【海岸景観】 ・海に突出する岬や海岸 ・集落ごとに特徴を成す漁村集落の外装 ・漁港の景観 【山岳景観】 ・海岸部まで連なる山地	・風衝形のブナ林、津軽山地のヒバ林、松前街道の松並木 ・なぎさの船小屋、龍飛崎や高野崎、平館の灯台 ・切妻、板羽葺きの漁村家屋 ・冬季の雪囲い(板塙) ・義経ゆかりの史跡 ・龍泊ラインから望むパノラマ、七つ滝、権現崎、青岩、小説「津軽」像記念館、オートキャンプ場	・今別町…巽月海岸、上股川上流の紅葉 ・平館村…松前街道の松並木、さい沼、お台場、平館灯台 ・三厩村…龍飛崎からの眺望と自然、龍飛ウインドパークの風車、やすらぎ公園 ・小泊村…龍泊ライン、権現崎、セツ滝、大潤海岸 自然な、飾り気のない、素朴な
津軽半島東部景域 ナチュラル	【田園農村景観】 ・青森平野の水田と背景の森 ・水田と背景の津軽山地のスカイライン ・金属屋根の民家や茅葺き屋根の民家 【海岸景観】 ・平坦型の海岸 ・漁港 ・海岸に点在する船小屋 【市街地景観】 ・国道沿いの古い住宅街	・ヒバ林、広大な水田風景 ・海岸線に点在する船小屋 ・新しい公共施設やレジャー施設 ・国道沿いの赤や緑の金属屋根の民家、茅葺き屋根の家 ・松に代表される歴史を感じさせる民家の植栽	・蟹田町…観瀾山公園海水浴場 ・蓬田村…玉松台からの眺め、玉松海水浴場 田園的な、自然な、素朴な
青森景域 クールカジュアル(市街) ナチュラル(山間)	【産業施設景観】 ・港湾の各種施設景観 【市街地景観】 ・商業地域、オフィス地域 ・住宅地域、郊外市街地地域 市街地景観 【田園農村景観】 ・平地田園景観・宅地化や産業施設の建設が進む田園風景 【高原・台地景観】(国立公園) ・菅野高原 【山岳景観】(国立公園) ・八甲田山系の山並 ・山岳のリゾート施設	・八甲田の新緑・紅葉・樹氷・冠雪、旧青森市街、八甲田の温泉群とスキー場 ・アスパム ・ベイブリッジ ・八甲田丸 ・城ヶ倉大橋 ・駅前市場 ・三内丸山遺跡 ・小牧野遺跡	・青森市…八甲田山、合浦公園、雲谷地区、陸奥湾 素朴な のどかな 伝統的な
夏泊半島景域 ナチュラル	【海岸景観】 ・背景の山地と一体になった海岸 ・海に突出した岬 ・漁村の景観 ・海岸に迫る山並 ・夏泊崎の松林 【田園農村景観】 ・海岸段丘と背景をなす山稜線 【市街地景観】 ・浅虫温泉	・ヤブツバキの自生北限 ・海岸部の松林 ・稲作 ・白鳥が訪れる浅所海岸の干潟 ・海岸に並ぶ長屋風船小屋や漁村の民家 ・浅虫温泉の宿泊施設	・平内町…冬の浅所海岸、夜越山からの眺望、夜越山の桜並木、椿山周辺、大島海岸 自然な 素朴な 居心地のよい

■色彩選定の考え方

景観タイプ別の考え方と推奨色範囲の色を使った例です。

この地域は、さまざまな景観タイプが凝縮された地域ですので景観タイプ別の色使いにも注意してください。代表的エリアカラーは、青森市市街にみられるやや明るいベージュ、サインや街道沿いに観察される緑系の外装、津軽半島の漁村に見られるおちついたグレイッシュな木質外壁の色などです。

写真はイメージの参考です。

1. 主に自然環境との調和をはかるケース

・八甲田山系、津軽山地、夏泊半島部、および海岸線一帯。

・山間部では、年間を通して、豊かな植生の色の变化が見られます。彩度の低いブラウン系を基調に、森の美しさを保つ色彩を優先させます。自然となじむ素材感も重要です。

(基調) (準基調)



2.5YR 3/1 10YR 7/1.5



7.5YR 5/3 10YR 6.5/2

・沿岸部は、山が海岸まで迫った変化に富んだ雄大な景観が特徴的です。砂や岩肌の色との調和に注意し、自然環境になじむ色を使います。



5YR 4/0.5 10YR 6/1.5



2.5G 4.5/2 10GY 6/2



2. 自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

・青森市郊外、国道4号、7号、280号など幹線道路沿い、市街近くの沿岸部。

・内陸部では、田園地帯に新しい施設や住宅が開発されつつある地域です。自然的要素と市街地的要素が混在するため、色のコントロールが特に重要な地域といえます。



7.5YR 6/3 5G 4.5/2



10YR 6/0.5 5YR 3/1

・ロードサイドでは、周囲から突出する色を抑え、ベージュや明るいブラウン系を基調にするとよいでしょう。



5YR 5/2 2.5YR 7.5/0.5



1Y 7.5/1.5 7.5YR 5.5/3

・沿岸部では沿岸に点在する諸施設と砂や岩肌とのバランスに注意します。



3. 市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

・青森市街ほか町村の中心部。港湾施設の中心部。

・青森市市街では明るいトーンの外装が基調で、グリーン系やブルー系がアクセントとして使われ、地域性を形成しています。港湾部付近では、オフホワイトや明るいベージュ系も使いやすい色です。



5YR 7.5/1 7.5YR 6/2.5



N 8 N 6

・こうした地域の基調色を中心とした、あたたかみのあるライトベージュやアイボリー、明るいブラウン系などをお勧めします。



2.5Y 7.5/1.5 7.5YR 7/3.5



10YR 6.5/2 10R 5/3



津軽地域における色彩選定の考え方

■地域の特徴

岩木山を頂く風景や夕日美しい海岸線など、日本人の原風景ともいえる景観が広がり、南には白神山地も控えています。弘前市、黒石市を中心に、古くからの町並や建築が保存されており、エリアカラーの重要性が特に高い地域です。無塗装の木を橋りょうやデッキ、雪囲い等に用いる伝統があり、木の素材色もエリアカラーといっぴいでしょう。十三湖に注ぐ岩木川を軸に津軽平野では水平基調の田園農村景観が見られ、伝統的な意匠の民家も多数残っています。岩木山を背景とする水田風景や岩木山山麓のリンゴ畑は地元住民の愛着が非常に強い景観となっています。津軽西海岸景域では、千畳敷で有名な変化に富んだ海岸線と、自然性の高い白神山地の景観が広がり、その自然性の高い景観を損なわない色使いが求められます。



カラーイメージは現況色の特徴をあらわしています。下線はエリアカラーが見られる事物やゾーンをさします。

■景域別データ

景域とカラーイメージ	主要な景観のタイプ	景観資源的なもの	守りたい景観とふさわしいイメージ (市町村別住民調査より)
津軽平野北部景域 カジュアルナチュラル	【田園農村景観】 ・津軽平野の水田 ・伝統的な茅葺き屋根の農村民家 【河川湖沼景観】 ・岩木川からの低地流域の眺め ・津軽山地を背景とする十三湖の景観 ・点在する低地の沼、池、湿原の景観 【海岸景観】 ・七里長浜に沿った防風林や砂丘の景観	・ヒバ ・湿原のニッコウキスゲや菖蒲、ミズバショウ ・砂丘に群生するハマナス、防風林のクロ松 ・低地の稲作、メロン、スイカ栽培 ・津軽大橋 ・小田川ダム ・太宰治記念館(斜陽館) ・十三湖大橋 ・各町村の茅葺き屋根の家屋 ・防風林に囲まれた伝統的意匠の民家 ・ストープ列車で有名な津軽鉄道	・木造町…ベンセ湿原、ニッコウキスゲ、埋没林、松の防風林、岩木山 ・森田村…つがる地球村、つがる地球村からの岩木山の眺望、舞舞藤山の松林、小戸六溜池 ・稲垣村…広大な田園風景、岩木山、稲穂いこいの里、茅葺き屋根の民家 ・車力村…漁港からの夕日、高山稲荷からの海岸線、屏風山、湖沼風景、呑龍岳 ・金木町…芦野公園、太宰治記念館(斜陽館) ・中里町…十三湖、不動の滝、袴腰山、大沢内溜池、賽の河原からみた津軽平野 ・市浦村…唐川城跡からの眺望、十三湖、十三湖の夕日、トーサムグリーンパーク、もや山、もや山からの眺望、道の駅十三湖高原、磯松海岸
			田園的な、のどかな、素朴な
津軽平野南部景域 クラシックダンディ (市街) ナチュラル (郊外・山間)	【田園農村景観】 ・岩木山をランドマークとする水平基調の水田や畑 ・田園地帯に点在する民家と背景の山地 【河川湖沼景観】 ・岩木川をはじめとする河川景観 【山麓景観】 ・岩木山と裾野に広がる高原、台地縁辺のリンゴ畑 【山岳景観】 ・白神山地の山並、橋りょうやダム、各種リゾート施設 ・起伏に富んだ十和田山系や八甲田山系 【市街地景観】 ・弘前市や黒石市をはじめとする歴史的町並地域 ・商業地域・オフィス地域 ・住宅地域・郊外市街地地域	・白神山地のブナ林 ・リンゴ畑 ・水田 ・弘前城、青森銀行記念館、石場家住宅など、禪林街、仲町伝統的建造物保存地区、城西大橋 ・こみせ、高橋家住宅 ・伝統的意匠の農村民家 ・旧平山家住宅 ・盛美館	・弘前市…岩木山、弘前公園(桜と松)、弘前城、古い洋風建築、禪林街、五重塔、武家屋敷の伝統建築 ・黒石市…観光りんご園、中野山のみみじ、こみせ、京町の寺院街 ・五所川原市…エルムの街、エルム大橋、岩木山 ・柏村…田園風景、岩木山を背景にした風景、リンゴ園、岩木川からの眺望 ・岩木町…岩木山、桜並木、藩政時代の松並木 ・相馬村…ロマンチックピアからの眺望、屏風岩 ・西目屋村…白神山地、暗門の滝、見返り坂、美山湖 ・藤崎町…白鳥飛来地、唐糸御前、リンゴ園 ・大鰐町…茶臼山公園、石の塔、天然スギ・ヒバ混交保護林 ・尾上町…生け垣、盛美園、猿賀公園 ・浪岡町…梵珠山、花岡公園、十和田温泉 ・平賀町…白岩、志賀坊森林公園 ・常盤村…平野と岩木山 ・田舎館村…田園風景 ・碓ヶ関町…三笠山からの眺望、岩淵公園 ・板柳町…リンゴ園、岩木山 ・鶴田町…富士見湖パーク 鶴の舞橋、岩木山、リンゴ園、岩木川河川敷
			伝統的な、田園的な、自然な、
津軽西海岸景域 ナチュラル (海岸) クールナチュラル (山間)	【山岳景観】 ・白神山地の山並・十二湖 【海岸景観】 ・変化に富んだ海岸線と山の稜線を背景にした直線的な海岸線 【産業施設景観】 ・漁港や関連施設 【田園農村景観】 【山麓景観】 ・段丘上の農地と山地を背景にした農村集落	・白神山地のブナ原生林 ・白神山地のリゾート施設 ・北限のタブの木 ・北限の自生ヤブツバキ ・西向き妻入り構造の民家がたち並ぶ漁村集落	・鏝ヶ沢町…白神山地、くろくまの滝、赤石溪流、夕日、天童山からの風景 ・深浦町…砂浜、白神山地、千畳敷海岸、夕陽、八森山からの眺望、行合崎、岡崎海岸、風合瀬海岸 ・岩崎村…夕日、白神岳、十二湖、沢辺ゆとりの駐車帯からの眺望、ガンガラ穴、大間越海岸
			自然な、すがすがしい、ロマンチックな

■色彩選定の考え方

景観タイプ別の考え方と推奨色範囲の色を使った例です。

この地域では、弘前や黒石に見られる古くからの町並や寺社・城郭の色彩、岩木山を頂く広大な水田風景の中に点在する農村集落の色彩がエリアカラーを形成しています。雪景色の中でのアクセントとなるオレンジ系の交通機関の色も特徴的です。

写真はイメージの参考です。

1.主に自然環境との調和をはかるケース

・白神山地、岩木山を中心とする山麓一帯。八甲田山系一帯。

・白神山地や岩木山の豊かな自然環境の保全が重要な地域です。彩度の低いブラウン系を基調に、森や山肌の美しさを保つ低彩度色が適しています。



・沿岸部は砂丘や防風林が連なる景観、山が海岸まで迫った岬や岩礁などが特徴的です。植生や岩肌の色との調和に注意し自然環境になじむ色を選ぶ必要があります。



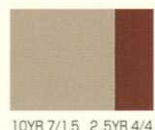
2.自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース

・津軽平野一帯の道路沿い。特に水田地帯の農村部や岩木川を望む橋りょう上。海岸の集落一帯。

・水平基調の広大な水田景観の中に点在する建造物は、遠方からも視認され、景観に対する影響も大きいので、周囲から突出しないよう注意が必要です。



・冬季の積雪も深く、無塗装の木の雪囲いや赤茶系の暖かみのある色使いが伝統的に多い地域です。ページユアブラウン、アイボリー系も、いくぶん彩度を上げた色使いが落ち着きを感じさせます。



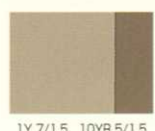
3.市街地で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース

・市街中心部、および港湾施設の中心部。

・地区のちがいにありますが、伝統的な町並や建築が多いこの地域では、全体としておちついた色調を重視していく必要があります。



・色みの強さよりも、素材感や重厚感を大切に、周囲の景観とマッチする色調に整える必要があります。



南部地域における色彩選定の考え方

■地域の特徴

上北南部景域の西側には、国立公園指定区域である自然性の豊かな湖沼、渓谷などを有する十和田・八甲田山系の奥深い山々が連なります。八戸景域の東側には、ゆるやかに起伏した台地・丘陵が広がり、モザイク状の田園は豊かな農村の色彩を作り出しています。貫流する河川沿いには広がりのある谷底平野と市街地の景観が続きます。海岸線には自然性の高い磯浜と臨海産業都市として発達した八戸の港湾の景観が形成されています。他の地域に比べ冬の降雪量が少なく、平野部は根雪になりにくい地域です。集落の屋根に見られるエリアカラーの色使いは内陸の農村部は赤茶系が多く、沿岸部はブルー系が多くなり、港湾部を中心に明るい清色的な色使いが見られます。八戸市、十和田市、三沢市市街はもちろん、その周辺部の郊外には住宅地や商業施設等が進出しつつあり、景観形成に配慮した色彩が求められます。



カラーイメージは現況色の特徴をあらわしています。下線はエリアカラーが見られる事物やゾーンをさします。

■景域別データ

景域とカラーイメージ	主要な景観のタイプ	景観資源的なもの	守りたい景観とふさわしいイメージ (市町村別住民調査より)
上北北部景域 ソフトナチュラル	【海岸景観】 ・陸奥湾岸に円弧状に連なる海岸 ・防風林を背景に広がる太平洋岸の砂丘景観 【高原・台地景観】 ・おだやかに起伏する台地上の牧野の景観 ・低い山並を背景に広がる沿岸部台地上の田園 【産業施設景観】 ・潟湖周辺の台地上に展開されている工業施設群 ・むつ小川原港 【河川湖沼景観】 ・太平洋岸に点在するおだやかな潟湖の景観	・のへじ海浜公園、愛宕公園、サントリー野辺地蔵置場、最古の灯台「常夜燈」、烏帽子岳 ・横浜町…菜の花畑、砂浜海岸、自然体験ランド「自然苑」 ・小川原湖、マテ小屋、日本中央の碑 ・物見崎、尾駮沼、鷹架沼	・野辺地町…愛宕公園の桜、スキー場からの眺望、十符ヶ浦海水浴場、常夜燈、柴崎牧場、烏帽子岳 ・横浜町…菜の花畑、吹越烏帽子岳、むつ湾、砂浜海岸線 ・東北町…小川原湖、清水目川 ・六ヶ所村…小川原湖、マテ小屋、たたみ岩
			自然な、のどかな、素朴な
上北南部景域 シックダンディ (市街) クラシックナチュラル (郊外・山間)	【河川湖沼景観】 ・十和田湖の景観 ・小川原湖の景観 【海岸景観】 ・防風林を背景に広がる太平洋岸の砂丘景観 【田園農村景観】 【山麓景観】 ・八甲田山系の裾野の低地に広がる水田 【市街地景観】 ・整備された十和田市の官庁街 ・歴史ある城下町の景観 【山岳景観】 ・十和田湖周辺や奥入瀬の溪流 ・高山を開拓した牧場の景観 【高原・台地景観】 ・防風林に囲まれた牧野	・官庁街通り(日本の道百選・日本百景)、奥入瀬川、花菖蒲の里、十和田の四名水、奥州街道に残る一里塚や松並木等の史跡、小田の埋没林、新渡戸記念館 ・小川原湖、斗南藩記念観光村 ・柏葉公園(七戸城跡)、東八甲田家族旅行村、町営スキー場、南部曲がり家、天王神社つづじ、奥州街道松並木 ・長寿日本一根岸の大いちょう、日本一の自由の女神像、いちよう公園 ・十和田湖、奥入瀬溪流、十和田神社、十和田湖温泉スキー場、国道102号花街道、八甲田ビューカントリークラブ ・鯉野公園、熊野神社、十和田観光電鉄、古牧温泉洗心公園、十和田国際カントリークラブ ・小川原湖ふれあい村、湖畔千本桜 ・下田公園と飛来する白鳥、カワヨグリーン牧場 ・天間ダム、天間林村中央公園、諏訪牧場	・十和田市…八甲田、官庁街通り ・三沢市…小川原湖、クリスマスイルミネーション、太平洋岸からのぞむ朝日 ・七戸町…天王神社のつづじ、八幡岳、高瀬川、奥羽牧場の桜並木、柏葉公園 ・百石町…根岸の大いちょう、自由の女神像、水平線からのぼる朝日 ・十和田湖町…十和田湖、奥入瀬溪流、奥入瀬ろまんパーク、八甲田連峰、奥入瀬川 ・六戸町…鯉野公園の桜、イルミネーション、八甲田連峰、奥入瀬川 ・上北町…小川原湖の白鳥・朝日、湖畔施設、花切川の桜、花切川からの八甲田 ・下田町…間木堤の白鳥や桜、奥入瀬川からの八甲田連峰、下田公園、カワヨグリーン牧場 ・天間林村…天間ダム、坪川、小坪川、森林公園
			田園的な、みずみずしい、開放的な
八戸景域 クールカジュアル (市街・港湾) クラシックナチュラル (郊外・山間)	【高原・台地景観】 ・台地、丘陵上の牧野、田園 【田園農村景観】 【山麓景観】 ・一帯からのランドマークとなる名久井岳 ・谷底平野の水田 ・農村集落 【市街地景観】 ・発達した市街地景観 【産業施設景観】 ・八戸港湾部に発達した産業施設 【海岸景観】 ・種差海岸 【山岳景観】 ・山間の集落	・種差海岸、無島、大須賀海岸(日本の渚百選)、シーガルブリッジ、葦毛崎展望台、清水寺観音堂 ・江渡家住宅(重文) ・タブコブ創造村、みろくの滝 ・法光寺承慶塔(三重の塔) ・南部利康堂、アイリス園、ぼたん園 ・寺下観音 ・福一海虚空蔵菩薩堂 ・カッキーの森エコーランド ・旧園子家武家居宅 ・キリストの里伝承館	・八戸市…種差海岸、無島、マリエントからの眺望、葦毛崎、市庁舎 ・三戸町…城山公園、名久井岳、熊原川 ・五戸町…ひばり野公園、高山峠からの展望、奥州街道 ・田子町…みろくの滝、タブコブ創造村、大黒森のつづじ ・名川町…名久井岳、馬淵川、法光寺承慶塔(三重の塔) ・南部町…名久井岳、長谷ぼたん園 ・陸上町…陸上岳、陸上海岸 ・郷地村…馬淵川と吊橋(苔米地橋)、ふれあい公園、田園風景 ・南郷村…虚空蔵山、高山神社、カッキーの森エコーランド、霧の奥展望台からの眺望 ・倉石村…小渡平公園の桜、倉石大橋 ・新郷村…大石神ビラミッド、キリストの墓、水芭蕉の群生、戸来岳
			自然な、田園的な、のどかな

■色彩選定の考え方

景観タイプ別の考え方と推奨色範囲の色を使った例です。

この地域は十和田湖一帯が観光資源になっており、その保全に注意が必要です。市街地も十和田市の官庁街通りに見られるような整備された景観があります。農村部には赤茶系の屋根が多くみられます。

写真はイメージの参考です。

1.主に自然環境との調和をはかるケース

・十和田湖周辺や奥入瀬溪流、牧場。小川原湖や沿岸に点在する潟湖。太平洋岸の台地、砂丘や一帯の海岸線。

・山岳部では、ブラウン系が中心に使われエリア性を形成していますので、基調色としてお勧めします。

・この地域は、木質を生かした施設や建造物が多いのも特徴です。それらとの調和やバランスを重視し、自然な風合感を損なわない色を選びます。

(基調) (準基調)



7.5YR 5/4 Y系N2



10YR 6.5/1.5 7.5YR 3/1.5



5YR 2.5/0.5 Y系NR2



2.5G 2.5/2.5 2.5G 4.5/2



2.自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース

・一帯の道路沿い。特に台地上の水田地帯の農村部。海岸の漁村集落一帯。

・内陸部の民家の屋根は赤茶系が多く、大きな施設ではブラウン系が多く見られます。これらと調和しやすいブラウン系からアイボリー系の色をお勧めします。

・沿岸部では、民家の屋根は青系が多く内陸部と対照的です。そのまま使うとあざやかすぎるため彩度を下げ、準基調色などに用いるとよいでしょう。



2.5Y 7.5/1 5YR 3/0.5



10YR 6.5/2 2.5G 2.5/2.5



1Y 6.5/1 6R 2.5/4



2.5Y 6/1 2.5PB 4/1.5



3.市街地で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース

・市町村の中心部。および港湾施設の中心部。

・市街では比較的明るいトーンの外装が多く、他の都市部に比べ明るいグレー系も多く見られます。特に沿岸の都市部はアクセントを含め、清色的な色使いが特徴です。

・港湾部では、工業施設、産業施設が発達していますが、明るめの色を基調に圧迫感を避ける色使いが必要です。



10YR 8.5/2 5PB 4.5/4.5



2.5PB 7/0.5 10G 6/2



2.5Y 7/0.5 Y系N5.5



7.5YR 5.5/1.5 1Y 7/1.5



下北地域における色彩選定の考え方

■地域の特徴

マサカリのかたちで例えられる下北半島は、大部分が国定公園に指定されており、下北半島西部景域を中心に樹林におおわれた山々が連なり、山岳景観が形成されています。津軽海峡、陸奥湾、太平洋に面する海岸線は荒々しい断崖や岩礁が見られ、変化に富んだ長大な海岸を形成しています。奇岩で有名な仏ヶ浦や恐山霊場が観光スポットになっています。景域東側には太平洋に突出した岬の景観、ゆるやかに連なる丘陵上に大陸的な牧野が点在します。

むつ市内の釜臥山からは、大湊湾に沿って広がる市内の眺望が見渡せます。市街地郊外においても住宅や各種の建造物の開発がいちじるしく、色彩のコントロールが必要な地域が多いといえます。佐井村に切妻板羽葺き、黒色の屋根をもつ漁村家屋集落が残され、独特の景観を形成しています。



■景域別データ

カラーイメージは現況色の特徴をあらわしています。下線はエリアカラーが見られる事物やゾーンをさします。

景域とカラーイメージ	主要な景観のタイプ	景観資源的なもの	守りたい景観とふさわしいイメージ (市町村別住民調査より)
下北半島西部景域 シックダンディ	【山岳景観】 ・ヒバ、ブナをはじめとする豊かな自然林でおおわれた自然性の高い景観 【海岸景観】 ・後背する段丘崖と一体となった海岸 ・海に突出する岬 ・段丘崖を背にした漁村集落 ・木質外壁の漁村の民家 ・巨岩が突出した特徴ある海岸 ・風雨と波によって浸食された雄大な断崖海岸	・ヒバ林 ・道の駅「かわうち湖」、川内ダム、渓流と大滝、湯の川温泉 ・日本三大霊場の一つ恐山と恐山周辺のミズバショウ、シャクナゲ ・本州最北端の碑、津鼻崎公園、赤石海岸、シーサイド・キャンドルパーク大間 ・下風呂温泉、易国間川、草島 ・葉研温泉、奥葉研修景公園 ・仏ヶ浦、がんかけ岩、ケビンハウス、フォーレストパーク、切妻板羽葺き 黒色の屋根をもつ漁村集落 ・貝崎園地、七引園地、愛宕山公園、鯛島	・川内町…川内川の渓流と大滝・遊歩道、川内ダム付近の紅葉、大銀杏の木 ・大畑町…葉研渓流、ヒバ ・大間町…海岸からの夕日・漁火、本州最北端大間崎、奥戸川の渓流と紅葉 ・風間浦村…易国間川、折戸海岸、下風呂温泉、二見岩、漁火 ・佐井村…仏ヶ浦、がんかけ岩、夕日、海岸線、縫道石山、岸壁の壁画 ・脇野沢村…愛宕山、牛の首公園、鯛島、北海岬、龍神広場、野猿公苑
			自然な、素朴な、閑静な
下北半島東部景域 シックナチュラル (山間) ナチュラルカジュアル (市街)	【田園農村景観】 ・むつ低地の水田や北部の台地上に点在する畑地、牧野 【山麓景観】 ・ランドマークの釜臥山周辺 【高原・台地景観】 ・むつ湾岸の台地の田園 ・景域東側の丘陵地帯に点在する丘陵の牧野 【海岸景観】 ・太平洋に突出した牧野の尻屋崎 【市街地景観】 ・むつ市市街地	・北洋館、水源池公園 ・釜臥山、釜臥山からの眺望 ・来さまい橋通り(都市景観大賞) ・尻屋崎灯台と寒立馬、猿ヶ森のヒバの埋没林	・むつ市…釜臥山からの眺望、芦崎、水源池公園、恐山、来さまい橋通り ・東通村…尻屋崎灯台、寒立馬、白糖灯台、尻屋崎の景観、ヒバの埋没林、猿ヶ森砂丘
			自然な、いごちのよい、やすらかな

■色彩選定の考え方

景観タイプ別の考え方と推奨色範囲の色を使った例です。

この地域は一部が国定公園に指定されており、ヒバ林も全国的に有名です。海岸部の岩礁も変化に富み、雄大な景観を保全する必要があります。また、伝統的漁村に見られるエリアカラーも大切にしたい色です。

写真はイメージの参考です。

1.主に自然環境との調和をはかるケース

・山岳部、および海岸線や牧野。

・山並みが海岸まで迫っている所が多く、沿岸部でも植生や岩肌の色が背景になります。基調色の選定には、背景との対比に注意し、環境になじむ色調を重視します。



・岩礁や岩肌の色は比較的多様ですが、地域の特徴を成す景観も多く、明度や彩度が浮き立たないように、注意して下さい。



2.自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース

・海岸線一帯の道路沿いの集落。市街地周辺の水田地帯。

・沿岸の漁村部では、伝統的な集落の色彩が保全されている地域もあり、色彩のまとまりに注意してください。



・水田や牧野の景観はロードサイドから視認されやすいため、周囲から突出する色を抑え、アイボリーやベージュ系などナチュラルな色を基調にすることをお勧めします。



3.市街地で、町並や人工物どうしの調和をはかるケース

・市町村の中心部。港湾施設の中心部。

・むつ市周辺に新しい施設や住宅が開発されつつあります。民家の屋根に見られる赤茶系や青系の色を使用するときは、そのままではあざやかすぎるため、彩度を下げてバランスをとるようにします。



・港湾部では、内陸部よりもいくぶん明るめの色が使いやすいでしょう。



現況色調査のまとめ

青森県内全域にほぼ共通して見られる傾向

①赤茶系、青系の屋根色

集落や住宅に見られる金属製の折板屋根の色は、赤茶系、青系が中心で、どこの地域でも見られます。(一部にグリーン系)これらの色は、内陸農村部では赤茶系が多く、海岸部では青系が多いという傾向があります。集落によっては、はでさを競っているようなところもあり、学校や倉庫など比較的規模の大きい建造物にも使用されています。こうした色は、カラフルではありますが、景観としてのおちつきやまとまりに欠ける傾向があります。ある程度、彩度を抑えたトーンを使用していく必要があるといえるでしょう。

民家の屋根色



②濁色系の内陸部の土の色

色相1Yを中心とする褐色系からやや黄みを帯びた土が中心で赤土や色みの強い黄土色はほとんど見られません。山あいや農村部における建造物の壁の色などは、この土の色との調和が必要です。

土の色



③「木の文化」を感じさせる木質の色

木質の建材が橋りょう、デッキ、外構(柵や塀)、雪囲いなどの各種施設などにひんぱんに使用されています。津軽地方を中心に無塗装の木の素材色を生かす伝統が生活の中に根づいています。

木の色は年月とともに明度、彩度ともおちつき、人工材にはない、あたたかみのある風合を感じさせます。森林が豊かな青森県らしい素材がもたらす色彩といえ、大切にしたい色です。

木質の色



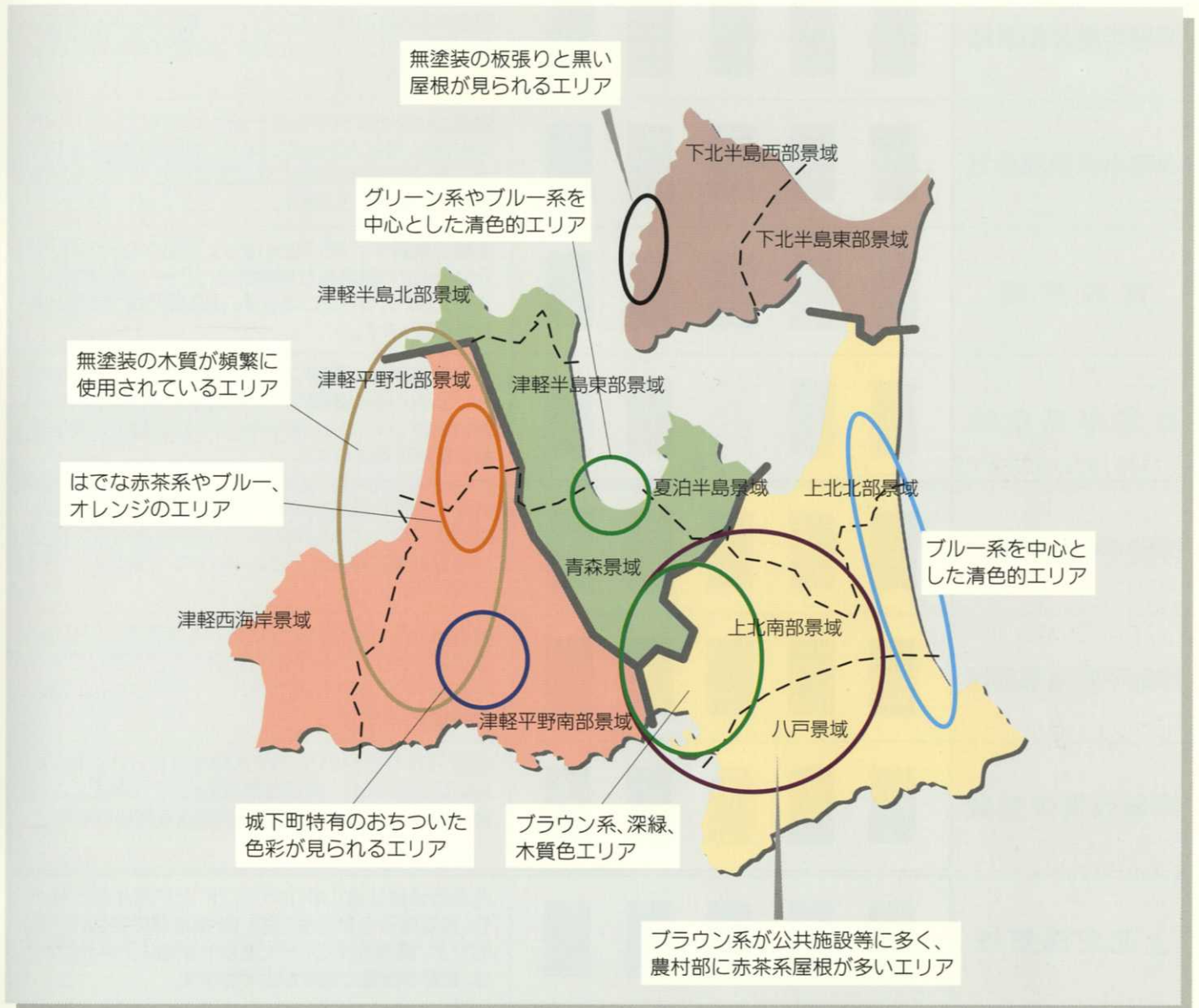
④市町村の推奨色範囲や景観づくりなどに見られる色彩

地域によっては、市町村の推奨色がエリアの特徴を形成していたり、町並の保全対策がエリアらしい色使いとなって表れている所もあります。

⑤郊外の幹線道路沿いは、商業施設を中心に色のコントロールが特に必要

市街中心部から郊外へ抜ける幹線道路沿いは、田畑を開発し、新たに商業施設や産業施設、住宅などが建てられています。こうした地域では周囲に建造物が少ないため、一棟の外装色が景観を左右します。郊外の商業施設などはそのスケールも大きいものが多く外装色やサインなどにおいて、周囲になじまない色や彩度が強すぎる色などが見られます。日本全国に見られる現象ですが、景観形成における色彩の重要性が特に高い地域といえます。

青森県の代表的エリアカラー



エリアカラーの見方

エリアカラーといっても、ここに示したような色が地域全面をおおい尽くしているわけではもちろんありません。また、県全体として見ると、エリアカラーの明快な地域と、色使いに明快な特徴のない平均的な地域があります。建造物に使われる色には、基本色※という色の種類と範囲があり、外壁には外壁、屋根には屋根に使いやすい色の領域があります。エリアカラーの明快な地域とは、基本色における特定の色範囲のウエイトが高く、平均的な地域とは基本色の使い方にあまりかたよりが無い地域といえるでしょう。エリアカラーには、明快な境界線があるわけではなく、グラデーション的な変化となって表れます。

※基本色…生活の中で慣用的に使われているベーシックな色のこと。












外 壁…ベージュ系、アイボリー系、明るい茶系など。都市部ではグレー系も慣用的に使われます。

屋 根…一般的には外壁より明度の低い色が広く使われています。全国的にみると黒に近いグレー系が代表で、おちついた茶系、緑系も慣用色です。青森県の民家では赤茶系や青系、緑系の屋根が慣用色となっています。

舗 装 材…グレー系やベージュ系、彩度の低い茶系などが代表的です。

道路附属物…防護さくや、照明施設、配電塔などは彩度の低い茶系やグレー系、緑系も慣用的に使われます。

現況色調査結果から推奨色範囲設定の経過

景 域	代表的現況色	現況色の特徴
津軽半島北部景域		海岸線に発達した漁村集落の民家や船小屋の外装に見られる木質の色がエリアカラーを形成しています。海岸沿いに山地が迫った雄大な自然環境に溶け込んだ伝統的色彩です。
津軽半島東部景域		国道沿いに伝統的な町並と、新しい施設がスポット的に点在し、対比をなしています。地域色は強くありませんが、植栽の松や海水浴場施設などの木質色が地域によくなじんでいます。
青森景域		多様な景観タイプが見られます。市街中心部では、明るいトーンの基調色が特徴的で、グリーン系やブルー系がエリアカラーといえます。山岳部ではブラウン系が多くなります。
夏泊半島景域		半島の海岸線に発達した漁村集落や、おちついたベージュ系の浅虫温泉の市街が国道沿いに見られます。漁村集落では、赤系、青系のカラフルな屋根の長屋風船小屋が散見されます。
津軽平野北部景域		外装に使用されている無塗装の木質色や、広大な水田地帯に点在する比較的是でな青系、赤茶系の屋根や津軽鉄道の車両にみられるオレンジ系などがエリアカラーです。
津軽平野南部景域		歴史的町並に見られる黒褐色と漆喰の色の対比や、赤茶系とグリーン系を使った配色などがエリアカラーとなっています。山間のリゾートではグリーン系の屋根も見られます。
津軽西海岸景域		国道101号線沿いとJR五能線から見られる海岸線沿いの岩礁や古い漁村集落、観光ホテルなどにこの地域らしいおちついた色調の外装色が見られます。
上北北部景域		色の地域性は強くありませんが、太平洋岸部の砂丘や、瀧湖周辺の自然性の高い針葉樹林の景観が特徴的です。陸奥湾側のJR大湊線や国道279号線からは、牧野や田園の色彩がのぞめます。
上北南部景域		山間部の施設や市街地の公共施設を中心にブラウン系が使用され、エリアカラーとなっています。農村集落には赤茶系の屋根、海岸線はブルー系の屋根が多くなります。
八戸景域		山あいや谷底平野上に点在する民家や古い木造建築におちついた外壁と赤茶系屋根のエリアカラーが見られます。海岸線はブルー系の屋根が多くなり、市街地は清色的な色使いです。
下北半島西部景域		国道338号線沿いから見られる漁村集落の黒い屋根色と、グレイッシュな板張りの組み合わせがエリアカラーとなり、地域の特徴を成しています。巨石や奇岩、岩礁の色も印象的です。
下北半島東部景域		むつ市市街では、赤茶系の屋根が目立ちますが、北洋館や水源池公園など石づくりの建築において、おちついた色彩も見られます。来さまい橋通りの木質のモニュメントがシンボル化されています。

12景域のエリアカラーの近似性と、ガイドプランとしての使いやすさを配慮し、4地域に統合し、推奨色範囲を設定しています。

代表的現況色のはでな赤茶系や青系は、主に民家の金属屋根(カラートタン)の色で、大規模行為や公共事業の基調色、準基調色には直接反映させにくいと判断されます。

※トーンは明度と彩度の範囲を示していますので、同一色相の同じ記号でも微妙な色のちがいが 있습니다。色相とトーンの記号の見方はP.4.5参照

推奨色範囲設定の方針

推奨色範囲においてキとした色※

青森地域

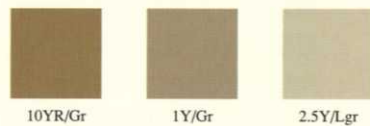
主に自然環境との調和をはかるケース

- 四季を通じての植生や土の色、海岸線の色と調和する色彩を重視します。
- 山あいのエリアカラーとして見られるブラウン系やおちついたグリーン系を推奨します。



自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 地域の植生や水田風景、土の色、町並のベージュ系やアイボリー系と調和する色彩を推奨します。
- エリアカラーとして見られるブラウン系やおちついたベージュ系も重要です。



市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 市街の基調色を成す明るいトーンを重視します。
- エリアカラーとして見られるグリーン系やブルー系の比率を高めに設定します。



津軽地域

主に自然環境との調和をはかるケース

- 四季を通じての植生や土の色、海岸線の色と調和する色彩を重視します。
- 山あいの諸施設に見られるブラウン系やグリーン系のおちついたトーンを推奨します。



自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 津軽平野特有の広大な水田風景となじみやすい色を重視します。
- エリアカラーとして見られる赤茶系やオレンジ系の色と調和する色彩を重視します。



市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

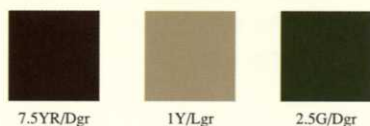
- 市街の古い町並に保全されているおちついたトーンを重視します。
- エリアカラーとして見られる赤茶系やグリーン系に合う色を重視します。



南部地域

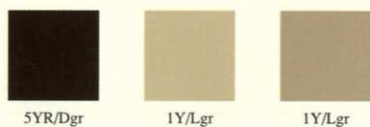
主に自然環境との調和をはかるケース

- 山間部のエリアカラーとして見られるブラウン系やおちついたグリーン系を推奨します。
- 海岸線は内陸にくらべ、明るめのトーンがマッチします。



自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 地域の植生や水田風景、土の色、町並のベージュ系やアイボリー系と調和する色彩を重視します。
- エリアカラーとして見られるおちついたブラウン系を推奨します。



市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

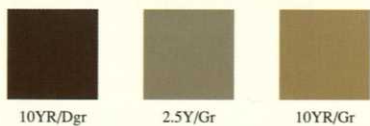
- 市街の基調色を成す明るいトーンを重視します。
- 沿岸部の市街地ではエリアカラーの清色系(ブルー系など)の比率を高めます。



下北地域

主に自然環境との調和をはかるケース

- 四季を通じての植生や土の色、海岸線の色と調和する色彩を重視します。
- 山あいの諸施設に見られる木質系のブラウン系のおちついたトーンを推奨します。



自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 海岸沿いに見られる風合に富んだ木質外壁や黒色の屋根色などのエリアカラーの比率を高めます。
- 地域の植生や水田風景、土の色と調和する色彩を重視します。



市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 町並の基調色として使いやすい基本色を重視します。
- 沿岸部はやや明るめに設定します。



いろいろな景観配色のテクニック

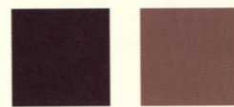
1. エリアカラーを使う

風土に培われてきた色は、長い時間の積み重ねの中で環境から学び、自然の色や素材を取り入れ、使いこなしてきたものが多いといえます。したがって、その地域の風土色や素材を媒介にして景観となじませることで統一感が生まれ、愛着のある景観をつくることができるようになります。



G/DI

R/Dp



YR/DI

R/Dgr

2. トーン配色をする

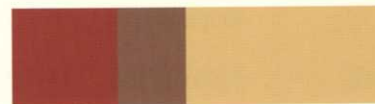
建造物等に使う色はできるだけ色相をしぼり、色の明暗(明度差)をつけてトーンを微妙に変化させる配色にします。同一色相のトーン変化で配色すると色の統一感が生まれ、配色に奥行きが出て、洗練されてきます。



YR/DI

R/Dk

YR/L



R/DI

YR/Lgr

YR/L

3. カラーリンケージで配色する

近隣の壁や屋根等の色と同一・類似の色を取り入れることによって、環境になじませる方法をカラーリンケージといいます。この方法を使うことで、近隣の建造物等と共通の色が用いられると、景観のまとまりと連続性が出てきます。自然の樹木などと外壁・屋根色がリンケージすると自然の中に溶け込みます。



YR/L

YR/DI

R/DI

YR/Dk



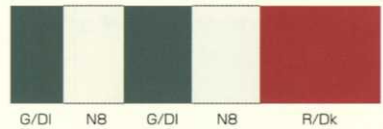
YR/Dgr

YR/Gr

YR/Gr

4. グラデーションとセパレーションを使う

おだやかにまとめる時には、暗い色・濃い色から明るい色・淡い色へと徐々にトーンを変化させるグラデーション(漸変)の方法を用います。壁面の一部にアクセント的に対比感を出したり、引きしめるためにはセパレーション(分離)の手法を使います。



YR/Gr Y/Gr Y/Lgr Y/Lgr

G/DI N8 G/DI N8 R/Dk

5. 基調色とアクセント色のバランスをとる

アクセント色の比率は基調色、準基調色に対して9:1、8:2程度の割合で考えるとまとまりやすくなります。



R/DI YR/Lgr G/DI Y/Vp

6. 面積や光による色の見え方に注意する

小さな色見本より畳くらいの大きさで見た時の方が、明度・彩度ともに約0.5~1.0アップしたような見え方になります。(明るく、色みを強く感じる面積効果)また、晴天時、日陰の部分は青みが、日の当たる部分は赤みを強く感じます。



7. 仕上げによる見え方の違い

石材やコンクリートでは、表面の仕上げのちがいによって生じる陰影が明暗の違いとなって表れます。テクスチャ(見た目の手ざわり感)により表情を与えるテクニクのひとつです。



表面の凹凸により陰影が表れます。



平滑な仕上げにより、模様がはっきり表れます。

8. 時間の経過を配慮する

自然材やレンガなどの素材色は年月の経過とともに味わいや深みを増しますが、塗装色は退色してきます。素材がもつ重量感や質感にマッチした色は、経年変化(エージング)に耐えやすいといえます。

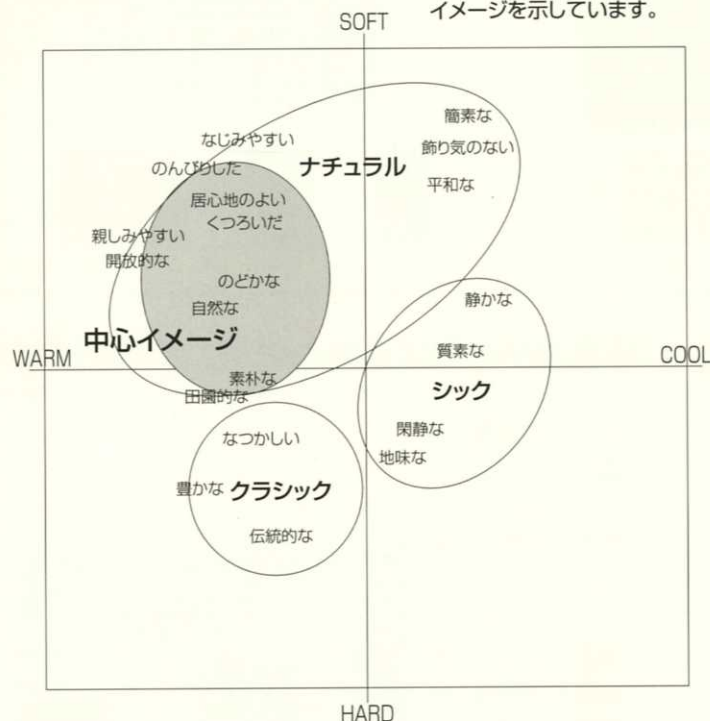


景観のイメージ調査結果

各地域の住民のみなさまを対象に、「お住まいの市町村にふさわしいと思う景観イメージ」について、平成10年12月、アンケート調査を実施しました(回答者1323名)。その結果を「データベース・イメージ調査法」により分析したうちの一部をご紹介します。

<景観イメージの方向性>

180語の言葉の中から選ばれた上位20語の位置とイメージを示しています。



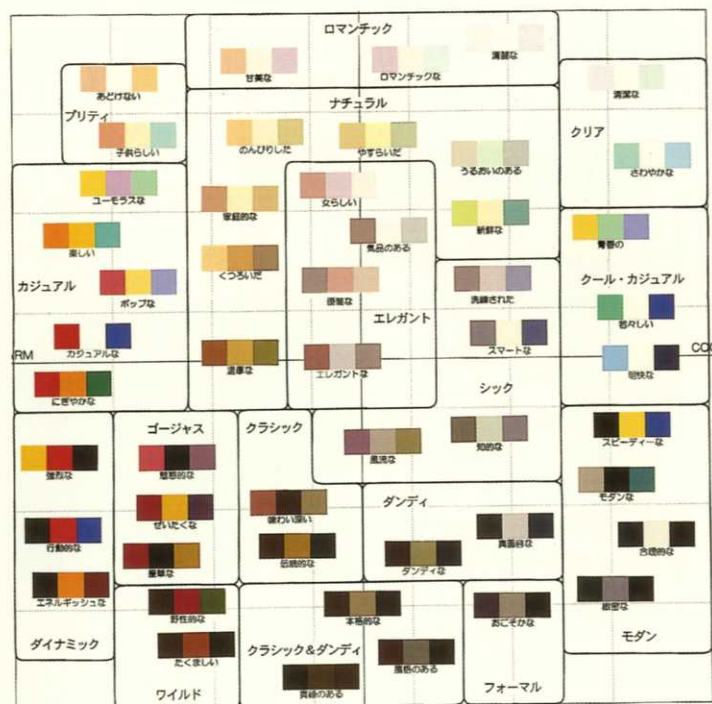
1. 青森県の景観イメージ

- ・青森県の各市町村の住民の共通イメージは、ナチュラルイメージが中心です。ナチュラルゾーンの言葉は、全体の約7割の人があげており、青森県全体のイメージを構成しています。
- ・自然な、のどかな、素朴な、田園的な、のんびりしたといった言葉が多く選ばれています。
- ・次に、静かな、閑静な、地味なといったシックイメージ、伝統的な、なつかしいといったクラシックイメージが強くなっています。
- ・各地域ともナチュラルイメージが高いため、このイメージを中心に据え、各景域の特徴を生かしていくことが大切です。

<景観イメージの配色>



<イメージスケール(配色)>



イメージスケールとは

色は固有のイメージをもっており、色に対して抱くイメージは、人によって微妙に異なりますが、共通する部分も多いものです。そのイメージの共通感覚を、心理的研究の蓄積で明らかにしたものがNCD(日本カラーデザイン研究所)のイメージスケールです。

左図は、判断基準となるWARM(あたたかい)-COOL(つめたい)、SOFT(やわらかい)-HARD(かたい)の座標軸に3色配色の基本的なイメージとその配色のテーマである言葉を位置づけたものです。一般的なイメージの全体像といえます。配色や言葉、いずれを選んでも、求めているイメージの分布パターンがわかります。

今回の調査では、居住地域のふさわしいと思われる景観イメージを、ここに位置づけられた180語の言葉を使って調査、分析しました。

2.各市町村別景観イメージの抜粋

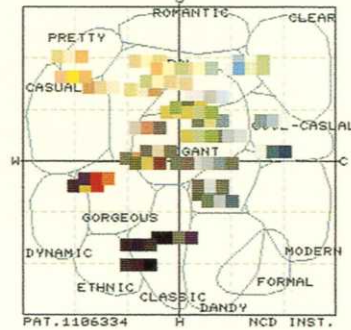
青森市

ナチュラルイメージは共通していますが、それに加えて、伝統的な、静かな、質素な、情緒的な、地味なといったイメージが強くなっています。
ナチュラルイメージは約6割の人があげており、クラシック、シックイメージが続いています。

伝統的な



静かな



イメージ語	パーセント
1 素朴な	50.0
のどかな	〃
伝統的な	〃
自然な	〃
5 静かな	45.0
6 田園的な	40.0
のんびりした	〃
8 情緒的な	35.0
質素な	〃
地味な	〃
平和な	〃
12 飾り気のない	30.0
豊かな	〃
なつかしい	〃
居心地のよい	〃
16 くつろいだ	25.0
殺情的な	〃
味わい深い	〃
質素な	〃
ひなびた	〃

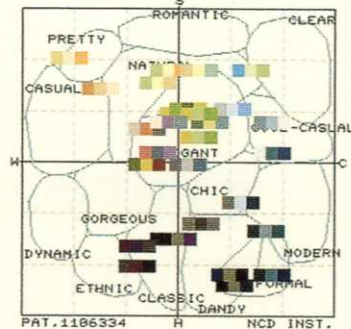
弘前市

ナチュラルイメージは共通していますが、それに加えて、伝統的な、情緒的な、文化的な、風格のある、味わい深いといったイメージが強くなっています。
ナチュラルイメージは約3割の人があげており、4地域のなかでは低い割合になっています。クラシック、シックイメージが続いています。

情緒的な



風格のある



イメージ語	パーセント
1 情緒的な	70.0
伝統的な	〃
3 文化的な	65.0
4 風格のある	60.0
5 居心地のよい	55.0
自然な	〃
7 味わい深い	50.0
古風な	〃
9 気品のある	45.0
10 のどかな	40.0
11 素朴な	35.0
校舎のある	〃
田園的な	〃
静かな	〃
15 平和な	30.0
後推な	〃
17 高尚な	25.0
親しみやすい	〃
閑静な	〃
なつかしい	〃

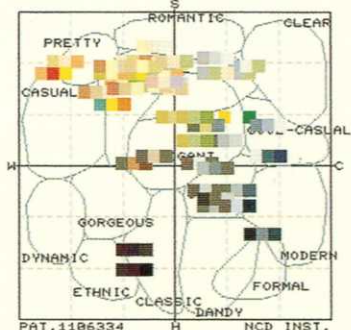
八戸市

ナチュラルイメージは共通していますが、それに加えて、親しみやすい、なつかしい、伝統的な、ひかえめな、ほらかなといったイメージが強くなっています。
ナチュラルイメージは約6割の人があげており、シック、クラシックイメージが続いています。

親しみやすい



なつかしい



イメージ語	パーセント
1 自然な	60.0
2 質素な	55.0
3 素朴な	50.0
のどかな	〃
のんびりした	〃
6 親しみやすい	40.0
なつかしい	〃
9 飾り気のない	35.0
ひかえめな	〃
11 質素な	30.0
ほらかな	〃
13 開放的な	25.0
なじみやすい	〃
おほらかな	〃
気静かな	〃
閑静な	〃
地味な	〃
居心地のよい	〃
温和な	〃

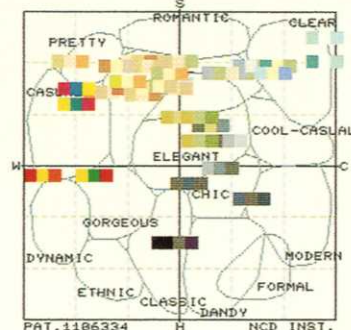
むつ市

ナチュラルイメージは共通していますが、それに加えて、親しみやすい、味わい深い、質素な、奥ゆかしいといったイメージが強くなっています。
ナチュラルイメージは約7割の人があげており、4地域の中では高い割合となっています。カジュアル、シックイメージが続いています。

味わい深い



質素な



イメージ語	パーセント
1 居心地のよい	60.0
自然な	〃
3 やすらかな	50.0
4 親しみやすい	40.0
なじみやすい	〃
飾り気のない	〃
のどかな	〃
8 くつろいだ	35.0
素朴な	〃
健康な	〃
11 味わい深い	30.0
質素な	〃
奥ゆかしい	〃
14 質素な	25.0
開放的な	〃
気のある	〃
さっぱりした	〃
温和な	〃
楽しい	〃
快適な	〃
20 洗練された	20.0

このガイドプランに関する問い合わせ先

青森県環境生活部生活文化課 景観班

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号

電話 (直通) 017-734-9208

(代表) 017-722-1111 (内線) 3523

FAX 017-734-8046